週刊 YEARBOOK

1919
大正8年

日録20世紀

9|29
平成10年9月29日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第36号 通巻79号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

「三・一」「五・四」“抗日”の叫び!

独軍捕虜1000人と徳島・板東収容所の「思い出」
「浅草オペラ」スター・高木徳子の“人気と死”
ドイツの“屈辱”! ベルサイユ講和条約成立

"李太王毒殺疑惑"に怒り爆発
「独立万歳」の声が京城に、そして北京でも……
「三・一」「五・四」運動と"抗日"の叫び！

一九一九年（大正八）、日本統治下の朝鮮と、日本の大陸政策に悩まされてきた中国で、抗日運動が起きた。「三・一運動」「五・四運動」という名もなき民衆の闘いが、それから長く続くアジアの救国運動の第一歩となり、時の政府の外交政策を揺り動かしたのだ。

抗日独立運動の波が京城から朝鮮全土へ

「万歳！　万歳！　万歳！」——。

一九一九年三月一日。正午の鐘を合図に、京城（現・ソウル）のパゴダ公園に集まった民衆は三〇万人を超えていた。早朝、宗教関係者がひそかに配った「宣言書」を手に集まった人、人、人……。

午後二時、一人の青年が、「朝鮮国の独立たること、朝鮮人の自由人民たることを宣言する」で始まる文書を読みあげる。一斉に空を舞う学生帽。「独立万歳！」の声が、公園の内外に響いた。

同じ頃、公園の近くの料亭・泰和館には、宣言書に署名した「朝鮮民族代表」二九人が集まっていた。彼らは宣言書を朗読し、祝杯をあげ、「大韓独立万歳！」を三唱する。デモ隊が、京城市内を行進。この年一月に六七歳で急死した李太王（第二六代国王・高宗）の喪礼に参加する市民も巻きこみ、隊列はみるみる数十万人規模に膨れあがる。

こうして幕を開けた抗日独立運動は、平壌や開城などの主要都市、農村に波及。四月には、朝鮮全土で最高潮に達した。

起爆剤になったのは、李太王の毒殺疑惑だった。一九〇七年、ハーグでの万国平和会議に密使を送り、日本支配の不当性を訴えて退位させられた李太王の急死に関して、「毒を盛られた」という噂が、乱れ飛んでいた。日韓併合（一九一〇年）後、立法や行政、農地とすべてを収奪されてきた民衆の鬱積した怒りが、この元国王の毒殺疑惑で爆発したのだ。

朝鮮人の金山は『アリランの歌』の中で、当日の様子をこう語っている。

「私たちは彼（先生）に率いられて街に出、何千という他の学校の生徒や街の人人と隊伍を組み、歌いながらスローガンを叫びながら町中を行進した。私はうれしさで心臓が破裂しそうだったし、誰もが歓びにあふれていた。（中略）一人の白髪の老人が段の上まで出て来てしゃがれ声で叫んだ。『見ろ、わしが死ぬ前に朝鮮の独立に会えるのだぞ！』」

▲処刑された人々。総督府は運動を徹底的に弾圧するため正規軍を投入、デモ隊に無差別発砲する事件が相次いだ。

▲1910年8月の日韓併合を機に、同年10月創設された朝鮮総督府。

▲「3·1運動」を指導した天道教の創始者、孫秉熙(ソンビョンヒ、中列中央)。逮捕され、病気保釈中に死亡した。「写真タイムス」

▲民衆を蹴散らす騎馬憲兵。3月から5月までに、230ヵ所の府·郡で、1491件のデモと暴動が起こった。「写真通信」

◀3月1日、逮捕連行される朝鮮人学生(京城本町派出所前)。この日多くの学生が負傷し、投獄された。「歴史写真」

◎表紙　京城市内を行進するデモ隊に呼応して立ちあがった民衆。「3·1運動」は、たちまち都市から農村へと波及した。

▲「5·4運動」は中国全土に拡大。5月9日、「国恥紀念大会」挙行後、構内で日本商品を焼く北京·清華学校の学生たち。

ところが、日本は、「三・一運動」を鎮圧するため、軍隊を増派（六個大隊と憲兵四〇〇人）、徹底弾圧を試みる。

中でも最も苛酷な弾圧を受けたのは、天道教徒やプロテスタントだった。日本は朝鮮人の同化政策にキリスト教を利用していたが、こうした宗教が全国で抵抗活動を組織していた。四月一五日には、京畿道の堤岩里という村で、キリスト教徒を教会に集め、封鎖したまま焼き殺すという「水原郡堤岩里事件」（二九人死亡）が起こる。

こうして迫害と抵抗運動が各地で繰り返された結果——〝朝鮮のジャンヌ・ダルク〟と呼ばれる柳寛順（一六歳で獄死）などの英雄が生まれた裏で——一説によると七五〇九人が死亡し、一万五九六一人が負傷したのである。↖

▲5月4日、天安門広場に集まり抗日運動に立ちあがった学生の一部は逮捕されたが、この日、7日に釈放された。

〝李太王毒殺疑惑〟に怒り爆発
「独立万歳」の声が京城に、そして北京でも……

「3·1」「5·4」運動と〝抗日〟の叫び！

中国外交を転換させた学生たちの激烈な運動

「三・一運動」の波が朝鮮から消え去らない五月四日午後一時、隣国・中国の北京・天安門広場でも、学生約三〇〇〇人が集まる抗日デモが起きた。

こちらは、パリ講和会議でドイツの山東省権益を日本が継承することが決定された、というニュースが発端となった。一九一五年の「二一ヵ条要求」の押しつけに象徴される日本政府の横暴に業を煮やしてきた中国人が、山東省の返還に向けて、ついに立ちあがったのだ。

「条約調印反対！」——学生たちは、スローガンを叫びながら〝売国賊〟の曹汝霖・交通総長（四二＝「二一ヵ条要求」交渉時の外交部次長）の邸へ押しかけた。曹は隠れて難を逃れたが、デモ隊は訪ねてきた章宗祥駐日公使（四〇）を殴打、曹邸を焼き払う。このデモが導火線となり、運動は全国に拡大。上海、広州など各地で、日本商品ボイコット、パリ講和条約反対の運動が繰り広げられた。

「『日本留学時の衣服と書物を、火葬にしてしまうのだ』と（男が）いきりたっている。一人の中学生は、自転車に乗ってきていた。余程感じたのか、自転車を火に投げ込んだ。『この自転車も日本品だった』。彼はこう叫んだ。群集はドッと笑った。なぜ笑うのだろう。不思議に思いながら見ていると、中学生は泣いていた」

「北京週報」の記者だった清水安三は、当時の北京の様子をそう伝えている。

各地の学生が授業放棄を宣言し、曹汝霖や章宗祥、陸宗輿・前駐日公使（四三）の罷免を要求。窮地におちいった北京政府は三人を罷免し、六月二八日にはベルサイユ条約調印を拒否したのである。

一方、日本国内には、事件の真相が伝わることなく、第二次世界大戦の終結まで、ただの〝暴動〟ととらえられていた。

◀「五·四運動」の〝紀念章〟。

結果的に、朝鮮では、「三・一運動」後、独立運動が恒常化。文化政治の名のもと、原敬内閣は、懐柔と威圧を使い分けた同化政策を進めることになる。

他方、中国では、孫文が中華革命党を中国国民党と改称。それは、「五・四運動」の成功に対応して、秘密組織であった党の体質を改め、大衆に基盤をおくことを目的としたものであった。

「『朝鮮人のような〝亡国の民〟にはなるまい』と中国人に決意させた点からも、二つの運動は連動していました。さらに中国の場合、親が勝手に結婚を決めるなど封建的な家庭に縛られてきた若者が、北京大学に入学し、そこでデモクラシーやサイエンスをスローガンとする新しい思想に開眼したのが『五・四運動』でした。この後、初めて北京大学で女性の入学が許されますが、ある意味で、この運動は中国近代史の始まりになったとも言えるでしょうね」

と、中国研究者の竹内実氏は語る。

アジアを揺るがした二つの運動から七九年——ソウルのパゴダ公園には今でも、決起の様子を絵にした銅板が飾られ、自由を勝ち取るために落命した人々の勇気がたたえられている。

「朝鮮人を想ふ」

日本国内の主要な新聞・雑誌は、朝鮮の「3・1運動」と中国の「5・4運動」に対して、「不逞鮮人を断乎取り締まれ」などと、批判的だった。その中で、日本の侵略政策を非難し、朝鮮人や中国人の苦悩をわが身の苦痛として感じる日本人もいた。

その一人が、東洋大学で宗教学を教え、朝鮮芸術の研究にも力を注いだ柳宗悦（30）である。彼は、「朝鮮人を想ふ」という題名の記事を「読売新聞」に寄せ、朝鮮人の苦しみを想い、日本人の良心に訴え、芸術を通した隣人愛を説いた。

「日本は不幸にも刃を加へ罵りを与へた。之が果して相互の理解を生み、共力を果し、結合を全くするであらうか。否朝鮮の全民が骨身に感じる所は、限りない怨恨である、反抗である、憎悪である」（「読売新聞」大正8年5月20日）

そのほか、政治学者の吉野作造（41）は、「中央公論」などで日本の侵略政策を公然と批判。大正デモクラシー運動と「5・4運動」の目的は同じだと説いて、「自己の反省」を日本人に迫った。

さらに、大正12年の関東大震災後、夫の朴烈とともに大逆予備罪に問われた金子ふみ子は、獄中手記『何が私をかうさせたか』で、日本人の朝鮮人に対する差別意識を鋭く告発し、死刑判決後、縊死している。

日本近代文学館提供

▲朝鮮美術に深い関心を持っていた柳宗悦(中央)は、大正13年、京城に「朝鮮民族美術館」を設立。

徳島の収容所に花開いたドイツ文化
ベートーヴェン「第九」を日本で初めて演奏！
独軍捕虜一〇〇〇人の「板東の思い出」

第一次世界大戦で日本軍の捕虜となったドイツ人が、四国の片田舎で多彩、奔放な収容所生活を送っていた。彼らは地元の人々と心をかよわせ合い、オーケストラを作りベートーヴェンの「第九」を日本で初演するなど、時代の最先端をいく科学大国、ドイツの文化を幅広く紹介した。その時まかれた種は、今もなお板東の地に花開いている。

▲仲間とともに楽団を作ったP・エンゲル少尉。大正8年、徳島市秋田町の新富座でお別れコンサートが開かれ、その際も「第九」が演奏された。 鳴門市ドイツ村提供

▲「板東俘虜収容所」の正門。ドイツ人捕虜1028人が、この板野郡板東町（現・鳴門市大麻町）の収容所で約3年間をすごした。

毎日新聞社（四点とも）

博愛の精神を縦糸に 武士の情けを横糸に

大正八年六月二八日、日本各地では国旗を掲げ、花電車が走り、提灯行列が繰り出すお祭り騒ぎでにぎわっていた。四年の長きにわたった第一次世界大戦が終わりを告げ、この日、パリのベルサイユ宮殿で講和条約が調印されたからだ。

ところが、徳島県の板東町（現・鳴門市）では、国旗こそ掲げられていたが、町全体が重苦しい空気に包まれ、人々は、「このたびはとんだことに」と、まるでお悔やみのような会話を交わしていた。

板東には、町の人口（約五一〇〇人）の二割近い約一〇〇〇人のドイツ人捕虜が暮らしていた。約三年の間、親しんだ彼らとの離別を町民は悲しんだのである。

ドイツ人捕虜とは、第一次大戦中の大正三年一一月、日本軍がドイツの支配下にあった青島を攻略した際に降伏した将兵約四六〇〇人をさす。

彼らは、最初、東京、大阪、福岡など一二ヵ所の寺院、公会堂、兵舎などに収容された。しかし、大正六年四月、大戦の長期化にともない、徳島、丸亀、松山など四国の施設にいた捕虜を、一ヵ所に集め、新築した板東収容所に移したのである。板東収容所は、敷地一万二〇〇〇坪、兵舎八棟をはじめ二六棟の洋風のバラック建築。所長は、陸軍大佐の松江豊寿（四七）だった。

松江は会津藩士を父に持ち、戊辰戦争では「会津降伏人」と呼ばれた父の辛い体験談を聞かされて育った。だから彼の捕虜への第一声は、「諸子を遇するに博愛の精神を縦糸に、武士の情けを横糸にしたい」というものだったのである。捕虜たちの顔に、一斉に感動と安堵の色が浮かんだ。

そして実際、松江は捕虜たちに対し、およそ収容所らしからぬ処遇をする。

▲手製のバーベル、キロ数表示板を作り、重量あげに励む力自慢の捕虜たち。

◀急ごしらえの日本風呂は、一〇人で満員。風呂たきは当番制で、入れるのは三日に一度だった。

◀ベッドでくつろぐ捕虜たち。自由で開放的な収容所の雰囲気がうかがえる。

鉄条網はあったが、事実上外出は自由（当初の「引率付外出」は次第に緩和された）。一月二七日のドイツ皇帝誕生日やクリスマスには、ビールパーティーも許可、手紙の回数制限もほとんどなかった。規律違反などの処罰権を捕虜自身に与えてもいた。ドイツの敗北後には、捕虜たちの〝別荘〟建設が許可され、収容所周辺に大きさも色もさまざまなコテージが二〇〇戸近く立ち並んだほどである。

◀収容所内の酒保。劇団、サッカー・チームもでき、生活は快適だったと言われる。3年間の捕虜死亡者数は9人。
毎日新聞社

板東町に鳴り響いた日本初の「第九」演奏

そうしたトップの配慮のもと、捕虜たちは、自由にスポーツや音楽を楽しんだ。楽団がいくつも結成され、その中で最も有名なのが、大正七年六月一日に、日本で初めてベートーヴェンの「第九」を演奏したＭＡＫ（沿岸砲兵隊）とエンゲルの両オーケストラだった。いずれも四五人で構成する本格的なもので、楽器は軍楽隊がたずさえてきたほか、救援団体からの差し入れ、また兵士たちの手作りのものも含まれていた。

捕虜の多くは民間人で、大戦直前に応召したものや志願兵が多く、職業も多彩だった。開戦前横浜に住み、貿易商だったクルト・マイスナー（三四）は、日本語を流暢に操った。捕虜と日本側との意思疎通がスムーズにいったのは、彼によるところが大きい。彼は、『資本論』の版元で知られるハンブルクのオットー・マイスナーの息子だった。また、捕虜の中には博士号を持つものもいた。東京帝国大学で経済学を講じていたベルリーナ（三七）もその一人で、後に彼は東京帝大に復職している。彼は、「第九」初演時のバイオリン奏者でもあった。

◀製菓講習会の修業証書。講習を受けた後、ドイツ菓子の専門店をいとなむものも現れた。

日本政府も、「捕虜の中には専門家が少なくないので、指導を受けたいものは申し出よ」という布告を出している。

農業技術者の捕虜の指導で、キャベツやタマネギなど西洋野菜が四国で初めて栽培され、ウイスキーやブランデーの製造法、家畜の去勢法、ドイツ式の牧場経営法も彼らが伝授した。収容所内でも捕虜たちは、みずからパンを焼き、野菜を作り、豚や鶏を育てて、支給される一日三〇銭の食費の不足を補った。ちなみに当時の徳島では、職人の手間賃が一日八〇銭程度だった。

また、彼らが石を積み上げて築いた「ドイツ橋」は、収容所から二キロほど離れた丸山公園に、今もその姿を残している。

今から八〇年も前の四国の片隅に、当時最先端のドイツ文化が花開いたのだった。住民の中には捕虜からケチャップやチーズをもらい、驚いて畑に埋めた農夫など、カルチャーショックを受けたものも多い。だが、捕虜直伝のパン作りを続けている「ドイツ軒」が今も鳴門に残っているように、住民全体が「異人さんの文化を自然体で受けとめていた」（「ドイツ軒」・岡正子さん）。

板東からのドイツ人捕虜の帰還は、大正八年のクリスマスに始まり、翌大正九年一月二六日までに完了している。

それから四〇年余りがすぎた昭和三七年、一通の手紙が板東に届いた。

「あの時、私たちは捕虜、皆さんは戦勝国民でした。でも私たちは心をかよわせ合いました。国境も、民族の相違も、勝敗もありませんでした。私たちはそれらすべてを乗り越えて、結ばれていました」

と書き出された手紙には、元捕虜たちが連絡を取り合い、年に数回集う「フランクフルト・バンドー会」を二十数年間開催し続けていること、今でも「マツエ大佐」や板東での出来事を思い出すと懐かしさでいっぱいになることなどが切々と綴られていた。

日独の温かい交流が板東で生まれたわけを、地元の研究家・林啓介氏は、「松江所長はじめ収容所のスタッフの人間性が第一。そして板東が四国霊場八八カ所の一番札所を持ち、見知らぬ人に親切にする土地柄だったのも大きい」と語る。

こうして蘇った交流は、鳴門市に町おこしを兼ねた「ドイツ館」が建設され、捕虜の子や孫が今も訪れるなど、現在でも広く深く続いている。

◀地元住民との交流は活発で、その様子は、ライポルト上等兵のカメラによって記録されている。
鳴門市ドイツ館提供

女たちの肖像

浅草オペラに見切りをつけ渡米して「蝶々夫人」に主演 国際歌手・原信子の〝野望〟

稲葉真弓

日本のオペラ草創期に活躍した原信子は、喜歌劇として一世を風靡した「浅草オペラ」の高木徳子、田谷力三と並ぶスターの一人だった。ことに三浦環が歌の修業のためヨーロッパに旅だった後、なくてはならぬ人となった。当時は〝ペラゴロ〟（オペラ好きの不良）なる言葉も登場。ファンの間で、乱闘騒ぎが起きるほどの人気だった。

その彼女が渡米、ニューヨークのマンハッタン・オペラハウスで「蝶々夫人」に主演、好評を博したのがこの年、二六歳の時だった。全米とカナダを巡演し、やがてイタリアへと活躍の場を移していく。

彼女が声楽家を意識するようになったのは八歳の頃。明治二六年、青森県八戸の華族の血を引く裕福な家の末っ子として生まれた彼女は、五歳の時、クリスチャンで教育熱心な母親とともに上京、教会の日曜学校にかよい、女性宣教師から賛美歌やピアノを習った。歌好きの少女は、明治四一年春、東京音楽学校に入学、ただし、この時は声がまだ若く、入学を許されたのはピアノ科だった。後に声楽科に移った彼女はサルコリに師事したが、学科の授業がいやで中退。サルコリが企画した上海でのオペラ「蝶々夫人」で初舞台を踏んだ。

大正元年、三浦環の後任として帝国劇場歌劇部にプリマドンナとして迎えられ、翌年、モーツァルトの歌劇「魔笛」でデビュー。歌劇部解散後は、帝劇の指導者、ローシーの設立した歌劇団に移った。七年、「原信子歌劇団」を結成。これが浅草オペラ隆盛の機に乗じた。が、大正四年に一度ニューヨークの舞台を踏んだ経験のある彼女にしてみれば、日本のオペラの限界が見えていたのかもしれない。欧米の劇場に〝野望〟を託した彼女は、昭和三年、日本人では初めてミラノ・スカラ座専属歌手となり、「蝶々夫人」「イリス」に主演。美貌が上流階級で話題になり、美人投票第二位になるなど社交界の花形にもなった。

昭和九年帰国し、「原信子歌劇研究所」を主宰。大谷冽子、伊藤京子など多くの門下生を育てた。私生活ではイギリス人の弁護士、ジョン・ギャスビーと結婚し英国籍を取得。二四年には藤原歌劇団で「トスカ」に主演、二七年には団伊玖磨作曲「夕鶴」の初演で〝つう〟を演じた。この間、毎日音楽賞、伊庭歌劇賞を受賞。五四年、八五歳で死去。最後まで日本にオペラハウスがないことを気にかけていたという。

▲わずか1年で浅草オペラと訣別。

勝者・敗者

〝打倒一高〟に闘志を燃やし慶応の新鋭・小野の右腕がみごと前年の覇者を完封！

阿部珠樹

明治三〇年代なかばまで、揺籃期の日本野球をリードしたのは第一高等学校だった。しかし、早慶両校が台頭し、一高は次第に覇権を遠ざかっていく。大正に入ると、早慶との差は大きく広がった。

ところが、大正五年、一人の投手の登場が一高を蘇らせる。内村祐之（当時・一九歳）、無教会主義のキリスト者、内村鑑三の長男である。一高に入学した内村は、左腕からの速球とカーブに加え、後に精神医学の大家となるのを予感させるような洞察力に富んだマウンドさばきで他校を圧倒する。大正七年には、三高をはじめ、早稲田、慶応、学習院を次々に撃破し、ついに一高を野球界の王者に押し上げた。

こうなると、黙っていられないのが早慶両校である。とりわけ、慶応が打倒一高に燃やす闘志は並々ならぬものがあった。

その先頭に立ったのが小野三千麿（二一）である。神奈川師範を経て慶応に入学した小野は、右腕からの快速球でたちまち頭角を現し、早稲田の谷口五郎と並ぶ大学球界のエースであった。小野を押し立てて打倒一高を！　が慶応の悲願となる。

この年大正八年五月一七日。一高のホーム、向陵グラウンドで両校は激突した。先発は当然、一高・内村、慶応・小野。しかし、内村には前年慶応をくだした時のような球威は見られなかった。毎回のように走者を許すが、たくみな投球術で何とかかわしていく。一方、小野は、まるで前年の内村が乗り移ったような力強い投球で、一高にチャンスらしいチャンスを与えない。

六回表、ついに均衡が破れる時が来た。内村は四球の走者に盗塁を許し、動揺したところをつかれ、三塁打を喫する。この得点がこの日唯一のものだった。その後、内村は立ち直ったものの、打線は小野を打てず、結局、一高は完封負け。新鋭・小野の快腕にかぶとを脱いだ。

小野は卒業後、三田倶楽部のエースとして活躍、大正一一年、来日した大リーグ選抜チームを相手に初の勝利投手になっている。

慶応義塾野球部百年史

▲対一高戦は、小野にとっては盲腸炎で急逝したチームメイト・松田恒政の弔い合戦でもあった。

1月

▶**大阪で銀行集会所が全焼（1月11日）**午前7時頃、中之島の大阪ホテル離れの調理場から出火、隣の集会所に延焼し、両建物を焼失。料理人が薪の点火に、揮発油を使ったため。

「写真通信」

◀**松井須磨子が自殺（1月5日）**梁に細帯をかけ、縊死。"新劇の女王"の突然の死だった。32歳。写真右は、前夜まで演じていたカルメン役の須磨子。左は自殺現場。遺書には「先生（島村抱月）の処へ行きます」とあった。

「歴史写真」（右も）

「写真通信」

◀**パリ講和会議へ西園寺公望出発（1月14日）**前月、先発した牧野伸顕とともに、日本全権として出席するため数千人に見送られ、神戸港を発った。随員に、近衛文麿・松岡洋右の名があった。

「写真通信」

▶**フランス航空団、大挙来日（1月14日）**フォール大佐ら61人が、大戦の実戦で鍛えた航空機の操縦、射撃、偵察、航法など全般を、半年間、陸軍航空隊将校に教授した。写真は、神戸港に着いた一行。

「歴史写真」

◀**欧州各国訪問の東伏見宮が帰国（1月7日）**前年9月来、特使として英・仏・伊・米などを歴訪、英国では大正天皇即位礼の答礼として国王に元帥刀を奉呈した。写真は、東京駅に降り立った東伏見宮。

大正8年 1月

1（水）●リープクネヒトら独共産党を創立（5日、ベルリンで労働者二〇万人が武装蜂起）。
2（木）●中央気象台初の降雪予報が的中、関東に積雪。
3（金）●陸軍、ウラジオストク派遣軍の削減を決定。
4（土）●前年の生糸輸出、米国の好況で史上最高の三億五千余万円だが数量減退が顕著と農商務省。
5（日）●独労働者党（ナチスの前身）、結成。
●松井須磨子、島村抱月の後を追い縊死。三二歳。
6（月）●宝塚音楽歌劇学校、創設（校長・小林一三）。
7（火）●大雪のため奥羽本線、陸羽本線が各地で不通。
8（水）●東京高速鉄道発起人会、上野—日比谷間の地下鉄建設免許を出願。
9（木）●関西商業会議所、節食（代用食）運動を提唱。
10（金）●米国政府が食糧中心に対独貿易再開、と外電。
11（土）●内務省、最高時速二四キロ、轢き逃げ厳罰などを規定した自動車取締令公布（2月15日施行）。
12（日）●好況を反映し七年末の各社資本金合計は、前年比四割の驚異的な増加、と農商務省。
13（月）●講和全権委員に西園寺公望、牧野伸顕ら任命。
14（火）●仏軍特派航空団の航空教官ら六一人が来日。
15（水）●独共産党のルクセンブルクとリープクネヒトが政府軍に虐殺される。「一月闘争」失敗。
16（木）●友愛会、大阪で労働組合公認期成大演説会。
17（金）●パデレフスキがポーランド連合政府を樹立。
18（土）●パリ講和会議始まる。二七カ国参加、米・英・仏・伊・日が最高会議を構成。独・ソは不参加。
19（日）●海運業界、運賃暴落し不況は深刻、と新聞に。
20（月）●北海道の大集治監・樺戸監獄廃監。旭川監獄に引き継ぎ、囚人による北海道開拓終わる。
21（火）●アイルランドでシン・フェイン党が議会開催し、独立を宣言（9月、英政府、議会を否認）。
22（水）●朝鮮の李太王死去。六七歳（3月3日国葬）。
23（木）●日本輸出鉛筆同業組合、第一回総会。
24（金）●福井市絹織物組合、二月からの休業を決議。
25（土）●パリ講和会議、国際連盟創設案を採択。
26（日）●政府、反革命勢力支援の「対露方針要綱」決定。
27（月）●牧野全権、最高会議で山東半島の独権益と、赤道以北の独領諸島の無条件譲渡を要求。
28（火）●ニューヨークに世界最大、客室二〇〇〇室のコモドア・ホテルが開業。
29（水）●台湾に日中合弁の華南銀行創設。
30（木）●東京に大雪、除雪に作業員三〇〇〇人を動員。
31（金）●東京—万世橋駅間で新高架線の試運転（3月1日、東京—中野間で運転開始）。

ニュース・ファイル 1919

フォト＋日録で再現する365日

ベルサイユ講和条約調印によって、世界大戦は終結。「戦後ブーム」に沸く日本は、高揚する労働運動が賃上げを実現させ、生糸と米価の高騰は農村をうるおした。同時に、「シベリア撤兵」、朝鮮の「三・一運動」、中国の「五・四運動」と、難問が次々に生じていた。

◀**1機だけの凱旋パレード（8月8日）**複葉機が、猛烈なスピードで凱旋門をくぐり抜けて、市民を驚かせた。パリの戦勝記念行事に間に合わなかった空軍兵が「愛機にも参加させたかった」ためのパフォーマンスだった。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

「写真通信」

「写真タイムス」

▲西ノ海、断髪式（2月3日）大関を7年間つとめ、大正5年に36歳で横綱になったが、翌場所から休みがちになり、無念の引退。鹿児島県西之表出身。優勝1回。

◀学生団体が普選期成大会（2月11日）日比谷公園に東京の17校の学生が集結し、衆議院前までデモ。前年の米騒動以来、普選運動の大衆化が目立つようになった。

▼米女性飛行士、妙技披露（2月1日）ロー夫人がカーチス機に搭乗、洲崎の埋め立て地に集まった東京市民10万人に、地上50メートルの宙返りを見せた。

「写真通信」

「写真タイムス」

▶憲法発布30年記念式（2月11日）紀元節のこの日、貴衆両院が東京・青山の憲法記念館で式典を開催。写真はその祝宴。原首相以下、閣僚らが出席した。

◀独軍武器の展示会（2月21日）日本基督教青年会が、東京・神田の青年会館で開催。欧州の各戦線から持ち帰った鉄兜、銃剣、ガスマスクなどを並べた。

▶独の日本人俘虜が帰還（3月3日）大正6年、インド洋で独巡洋艦に撃沈された「常陸丸」の船員ら14人が、俘虜収容所に入所。この日、他の収容者44人とともに神戸に到着した。

「写真通信」

「写真通信」

大正8年2月

1（土）●陸軍省、前年末までの「シベリア出兵」戦死者七七人、病死者二二六人と発表。
●鉄道院、電車に「喫煙遠慮」の掲示を出す。

2（日）●日本人移民促進で旅費補助とブラジル政府。

3（月）●スイスで社会主義者大会、第二インター復活。

4（火）●岩手県農会、六日間の家事学校を各村に開設。

5（水）●東京・築地で第一回人種的差別撤廃期成大会。

6（木）●独共和国、ワイマールで初の憲法制定国民議会を開催（13日、連合政府樹立）。

7（金）●小学校令、中学校令を改正。国民道徳の養成強調、小学五年、中学四年からの進級認める。
●前年からの「スペイン風邪」の死者五〇七七人と警視庁（3月までの全国の死者二八万人）。

8（土）●在日朝鮮人留学生六百余人、東京で朝鮮民族大会の招集請願書と独立期成宣言書を発表。

9（日）●大原孫三郎、大阪に大原社会問題研究所設立。
●東京で普選期成大会、名古屋で普選市民大会。

10（月）●日本工業倶楽部、第一回労働問題協議会開催。

11（火）●東京で学生三〇〇〇人、衆院に普選要求デモ。
●長谷川如是閑・大山郁夫ら、「我等」創刊。

12（水）●蚕糸業者一八人の米国絹業視察団が渡米。

13（木）●長春駐屯軍輸送隊で、納入業者から手数料強要、売春婦樽詰め密輸などの不正事件発覚。

14（金）●罰則規定新設など結婚紹介業の取締規則改正。

15（土）●友愛会、普選期成労働者大会を京都で開催。

16（日）●兼松商店、神戸高商に五〇万円寄付。

17（月）●東京・板橋の村会議員、教師らを賭博で検挙。

18（火）●清水金太郎、田谷力三、藤原義江らの七声歌劇団、浅草・金龍館で第一回公演。

19（水）●ウラジオストク派遣第一航空隊、広島に帰還。

20（木）●上海で中国南北和平会議（5月13日、決裂）。

21（金）●早大で高津正道、浅沼稲次郎ら、民人同盟会結成（10月18日浅沼ら脱退し建設者同盟結成）。

22（土）●三菱、ロンドン支店、イタリア代理店を開設。

23（日）●東京の小学校卒業生二万七千余人、師範学校進学希望者減少し実業学校が増加、と新聞に。

24（月）●鉄道院総裁、狭軌でも輸送力満たせると言明。

25（火）●シベリア派遣の歩兵第七二連隊田中支隊、ユフタ付近で全滅。三五〇人戦死。

26（水）●一二〇〇円持ち逃げの浅草郵便局員を検挙。

27（木）●京城（ソウル）で朝鮮独立宣言書二万一〇〇〇枚印刷（28日代表二五人、独立宣言書に署名）。

28（金）●白木屋呉服店、経営近代化はかり株式会社に改組（3月松屋、8月高島屋、12月十合も）。

証言・あの日この日
佐藤春夫（26）

2月4日（火）〈四日。節分。例によつてひる頃起きる。戸の透間から、珍らしく明るい日の光が射してゐる。それを見て元気が出る。食事をして春陽堂へ出かける——一時。「お絹とその兄弟」のなかに納める原稿を集めるためである。捜すものなし。丸善に寄つて、大きな絵本のＨｕｍａｎ Ｔｒａｇｅｄｙ買ふ。このなかの絵を近く新潮社から出版する筈の訳本「人間悲劇」に挿んで見たいと思つてである。新潮社へまはる。そこで久保田万太郎に出会ふ〉（佐藤春夫『佐藤春夫全集』第11巻）

谷崎潤一郎の推薦で文壇に登場した佐藤春夫は、この頃、有望な新鋭作家としての地位を確立、一躍文壇の寵児となる。編集者や新聞記者の訪問が相次ぎ、原稿依頼も殺到する。この日も、意気揚々と出版社めぐり。帰宅途中、今東光、東郷青児に遭遇、夕食。（山崎行太郎）

「写真通信」

▲神田駅開業（3月1日）3年2ヵ月ぶり、東京—万世橋間の院線電車高架化の完成とともに、新駅が落成。早朝4時45分、東京駅を始発電車が発車した。写真は、新駅構内で行われた祝賀会。

▶地中海派遣の海兵、ロンドンを行進（2月）独軍の潜水艦作戦に対して出動していた日本の艦隊が、大戦終了で同盟国・英国に寄港。写真は、市内で歓待を受ける乗組員。

「歴史写真」

▼畜産工芸博覧会開く（3月18日）中央畜産会主催。東京・上野に羊の親子、放牧状態の馬などを展示、畜産の宣伝・振興をはかった。写真は、巡覧する閑院宮総裁。

尾形光彦提供　「写真通信」

「写真通信」

▲李太王、国葬（3月3日）明治40年、日本に帝位を追われ、この1月に死去。67歳。日本の関与が噂され、「3・1運動」へ発展した。写真は、幽閉されていた京城（ソウル）・徳寿宮から斎場への葬列。

▶東京に「青バス」登場（3月1日）東京市街自動車㈱が、新橋—日本橋—万世橋—上野間で開業。青塗り、16人乗りバス15台を投入した。1区間10銭。東京では初の乗合いバスだった。

大正8年3月

1（土）●朝鮮各地で朝鮮独立宣言が発表され、抗日独立運動が全土に拡大する（「三・一運動」）。
●東京市街自動車会社（青バス）、運行開始。

2（日）●コミンテルン創立大会、モスクワで開催。

3（月）●大審院、機関車の煤煙による老松枯死訴訟で、国の責任を認める判決（信玄公旗掛け松訴訟）。

4（火）●広島県の花戸いと、女性初の船長免許取得。

5（水）●道路改良財源に間口税・貨車税・貨車入市税・電車通行税をあてると東京市助役が言明。

6（木）●新人会、機関誌「デモクラシイ」を創刊。

7（金）●売文社が解散、高畠素之、堺利彦ら三派に分裂。

8（土）●衆院、選挙法改正案可決。選挙資格を一〇円から三円以上の納税者に拡大（5月23日公布）。

9（日）●京城市内の商店街、独立求め一斉休業。

10（月）●寿屋、赤玉ポートワイン専用瓶詰め工場建設。

11（火）●大蔵省、東京の市電敷設用公債を認可。

12（水）●英・蹴球協会が日本に優勝銀盃贈呈と新聞に。

13（木）●日銀総裁に井上準之助が就任。

14（金）●大毎の上西半三郎記者、大戦後初の日本人として独入り（5月27日ベルリンに通信所開設）。

15（土）●松竹、欧米の活動写真状況視察のため、市川猿之助、白井信太郎ら五人を派遣。

16（日）●海軍、火薬廠を神奈川県平塚に設置。

17（月）●臨時国民経済調査会、米価調節策を建議。

18（火）●インドで反英運動弾圧のローラット法施行。

19（水）●呉工廠の戦艦「長門」、職工不足で進水遅れ、民間の熟練工九〇〇人の応援求めると新聞に。

20（木）●高木徳子、福岡公演中発病（30日死去、二九歳）。

21（金）●陸軍、大戦中の独陸軍を調査研究のため、下村定・山下奉文大尉ら五人を独に派遣。

22（土）●初の国立感化院・武蔵学院の開院式挙行。

23（日）●ムッソリーニ、「戦闘ファッシ」を結成。

24（月）●枢密院、関東（遼東半島）都督府改革案可決。関東都督府を関東庁に改編（4月12日公布）。

25（火）●八年度予算八億九千余万円（軍事費四五％）公布。前年度比二一％増の大型予算。

26（水）●品評会開催中の府立大阪商品陳列場が全焼。

27（木）●結核・トラホーム予防法、精神病院法公布。

28（金）●インドで革命派と疑われ、二月に拘禁・強制送還された鹿子木員信慶大教授、神戸に入港。

29（土）●大戦時の米国への提供船二二隻、帰航開始。

30（日）●米国の大型映画「イントレランス」、帝国劇場で封切。最高額一〇円の入場料でヒット。

31（月）●定期乗車券利用者は八万～九万人、と新聞に。

▲バウハウス創設(4月25日)新生ドイツが、国立美術工芸学校をワイマールに建設。建築家・グロピウスを校長に、カンディンスキーら俊英が集まり、新しい建築運動の拠点となった。

「写真タイムス」

▲横浜で大火(4月28日)午後2時近く、千歳町の車夫宅から出火、烈風にあおられた火は日出川を越えて四方へ拡大、午後9時近く3100戸を焼失し、やっと鎮火した。写真は、花園橋付近の惨状。

「写真通信」

▶坂田三吉八段(48)勝つ(5月17日)6日間におよぶ力戦のすえ、土居市太郎七段(31、写真左)を破った。土居はかつて、次期名人位昇進の最右翼・坂田を下し、その野望を断った相手だった。

▼メキシコ農民の英雄・サパタ暗殺(4月10日)カランサ大統領の刺客に射殺された。40歳。一貫して小農の立場に立ち、連邦政府とは鋭く対立していた。

毎日新聞社

▲新築中の国技館崩壊(4月20日)基礎鉄骨を支える鋼索が強風のため切れ、大鉄傘が崩れ落ちた。一人死亡、11人が重傷を負った。国技館の開館は、この事故のため翌年1月になった。

「写真通信」

▶消防機械化の幕開き(4月16日)警視庁消防部が、和田倉門堀端で米国製ポンプ車の放水実験。翌年、東京のポンプ・水管自動車は各25台ずつとなり、蒸気ポンプ・水管馬車は姿を消した。

大正8年4月

1(火)●京都・明治座で行友李風作、澤田正二郎主演の新国劇「月形半平太」初演、大当たりとなる。
●火災報知用電話の使用料が無料となる。
2(水)●大蔵省印刷局、官報への一般広告掲載を開始。
3(木)●山本実彦、月刊誌「改造」を創刊。
4(金)●モンゴルからラマ僧六人の日本視察団来日。
5(土)●京都に国立陶磁器試験場を設置。
6(日)●ガンジーら、第一次非暴力抵抗運動を開始(13日英軍、反英集会を襲撃し四百余人を殺害)。
7(月)●ミュンヘンにバイエルン・レーテ共和国成立。
8(火)●陸軍、朝鮮の独立運動鎮圧のため、六個大隊と憲兵四〇〇人の増派を決める。
9(水)●私立大設立認可基金を五〇万円と文部省決定。
10(木)●朝鮮の民族主義者が上海・仏租界で大韓民国臨時政府を樹立(李承晩が国務総理に就任)。
11(金)●道路法公布。道路行政を一元化し輸送力強化。
●工場寄宿舎の魚・肉類は月一~四回が五割、平均八回と農商務省全国製糸工場調査で判明。
12(土)●関東軍司令部条例公示。関東軍が独立。
●関東庁初代長官に外交官の林権助が就任。
13(日)●北海道に台風、ニシン漁の四二人が行方不明。
14(月)●陸軍科学技術研究所・同技術本部を設置。
15(火)●朝鮮総督府、「政治に関する犯罪処罰の件」を制定、大衆行動とその扇動に厳罰を適用。
16(水)●新潟・松本・山口・松山に官立高等学校新設。
17(木)●青島・朝鮮牛輸送冷蔵車三〇両新造と新聞に。
18(金)●埼玉県所沢に陸軍航空学校を設立。
●東京府第一回工場主協議会、一日・一五日の労働者休日を第一・第三日曜とする改定案否決。
19(土)●第一回東都大学専門学校陸上競技会、東京帝大運動場で開催。インターカレッジの前身。
20(日)●建築中の国技館の鉄骨が旋風で倒壊。
21(月)●堺利彦、山川均ら「社会主義研究」を創刊。
22(火)●新聞雑誌広告には醜悪なものが多いと新聞に。
23(水)●仏で八時間労働法が成立。
24(木)●山田式気球製造所が株式会社に改組と新聞に。
25(金)●独・ワイマールに国立美術工芸学校・バウハウスを創設。校長はワルター・グロピウス。
26(土)●電気火葬装置を持つ葬儀社、東京博愛が創業。
27(日)●山本鼎、長野県で自由画教育運動を提唱。
28(月)●横浜市千歳町から出火、三一〇〇戸焼失。
29(火)●満鉄が設立した鞍山製鉄所、操業を始める。
30(水)●パリ講和会議、山東半島の独利権を中国に返還せず、日本への譲渡を承認。

毎日新聞社

▼皇太子裕仁、成年式(5月7日)宮城・賢所皇霊殿で奉告の儀。18歳。9日には上野公園での遷都50年祭、10日には東京市制施行30年記念祝賀会。東京はお祭り騒ぎが続いた。

「写真タイムス」

「写真通信」

▲梅蘭芳が来日(4月25日)中国一の美貌を誇る若手京劇俳優(24)が、東京駅着。5月1日から12日間、帝劇で蘭芳が天女になる「天女散華」などを上演、好評を博した。写真右は夫人。

▲シベリアの戦果あがらず(5月17日)前年8月の「出兵」以来、戦線は伸びきり、赤軍とパルチザンの攻勢で次第に後退、駐屯地域維持に追われた。写真はモゴチャー駅の派遣軍。

ROGER-VIOLLET/ユニフォト・プレス

◀パリで流血メーデー(5月1日)パリのメーデーは30回目を迎え、50万人が参加。大戦を担った復員兵と、終戦で生じた失業者の不安や不満が爆発。警官隊や軍隊と激突し、六百余人が負傷した。

▼山本五十六、米国駐在へ(5月20日)海軍の命令で、2年間「仮想敵国」に滞在。35歳。連合艦隊司令長官への階梯を、登り始めた。写真の後列右から二人目。

「写真タイムス」

▲衆議院焼く(5月10日)深夜、東京・芝で出火、近隣30戸を全半焼し、さらに西南の風を受けて飛び火。玄関と議場の屋根を全焼、内部は水びたしとなった。

大正8年5月

1(木)●森永製菓、練乳の「森永ミルク」発売。一缶五〇銭(8月1日、「ミルクココア」発売)。
2(金)●中国の間島で朝鮮人が日本領事館に放火。
3(土)●七年末の東京府の人口は三六八万八七〇六人。
4(日)●北京の学生、山東問題に抗議デモ(「五・四運動」。19日スト宣言、排日運動が各地に波及)。
5(月)●夏の単衣は茶がすたれ鼠色が流行、と新聞に。
6(火)●渡辺政之輔ら、全国セルロイド職工組合結成。
7(水)●パリ講和会議で、赤道以北の旧独領マリアナ諸島などが日本の委任統治領となる。
●皇太子裕仁親王が成年式。
8(木)●米海軍少佐ら五人を乗せた飛行艇、アゾーズ島経由の大西洋横断に挑戦(27日、成功)。
9(金)●東京遷都五〇年祝賀会を上野公園で開催。
10(土)●アフガニスタン、独立を掲げてインド政庁に宣戦布告(8月8日、英政府、独立を承認)。
11(日)●陸軍、初輸入のスタンレー自動車を試運転。
12(月)●第四回極東選手権大会、マニラで開催。
13(火)●呉海軍工廠製図工場の火災で図面多数焼失。
14(水)●東京憲兵隊、三八式小銃払い下げを口実に商社から三万円詐取の「大陸浪人」を勾引。
15(木)●尾上松之助ら浅草・遊楽館で「道中膝栗毛」など五作品封切の舞台挨拶。観客殺到し混乱。
16(金)●農商務省、商工局分割し商務局と工務局設置。
17(土)●坂田三吉、六日間の大手合で土居市太郎下す。
18(日)●堂前孫三郎ら、大阪鉄工組合結成。
19(月)●山形県米沢市で大火、一二〇〇戸焼失。
20(火)●柳宗悦、日本人に朝鮮支配の見直しを求めた「朝鮮人を想ふ」を、「読売新聞」に掲載。
21(水)●「多摩川の鮎」の人工孵化を試みる、と新聞に。
22(木)●東北帝大、工学部と鉄鋼研究所を開設。
●横浜船渠、初の関門海峡用・貨車汽船を進水。
23(金)●陸軍、歯科医採用を決定。衛戍病院で実施。
●和辻哲郎、『古寺巡礼』を刊行。
24(土)●官設北條線、大原―勝浦、成東―東金間開通。
25(日)●理論物理学の石原純、学士院恩賜賞を受賞。
26(月)●東京女高師付属女学校で下穿き(下着)を一斉に着用、体操や普段の歩行に効果的と新聞に。
27(火)●東京市会、ガスの五〇銭値上げを承認。
28(水)●東京市、吏員生活困窮のため五割増俸を決定。
29(木)●日本アルプス会、登山案内者養成など決める。
30(金)●連騰の期米市場、この日開設以来の新高値。
31(土)●農商務省技師・山田憲、株で作った借金返済のため外米商・鈴木弁蔵を殺害(鈴弁殺し事件)。

「写真通信」

▲大西洋無着陸横断に成功（6月15日）カナダのニューファンドランドを発った、英国人二人が搭乗した複葉機が、16時間27分後、アイルランドにみごと着陸。

「嗜好」

▲コカ・コーラ初輸入（6月）食品輸入商社・明治屋が、「米国最新式、世界的清涼飲料水」とうたい、発売。本格的普及は、第2次大戦後に再登場してからである。

「写真通信」

▲新伝染病研究所長に長与又郎（6月6日）東京帝大教授・癌研究会理事長を兼任。41歳。夏目漱石を解剖、「傑出人脳の研究」でも知られる。作家・善郎は末弟。

▼鈴木春信と笠森お仙の碑建立（6月15日）150回忌を記念、東京・谷中の大円寺に永井荷風らが、絵師と、その名作のモデルの碑を2基建立した。写真は春信の碑。

「写真タイムス」

▲全国メリヤス業者がデモ（6月16日）大阪・中之島の中央公会堂に5000人が集結。大戦時に贅沢品禁輸令を発令したままの英国に、輸入解禁を求めてデモ行進を行った。

▶代議士一行、シベリア視察（6月10日）日本はチェコ軍救援達成後も、シベリアに駐屯し続けたが、人道上・財政上疑問視する意見は強かった。写真は東京駅で。右端・犬養毅。

「写真タイムス」

大正8年6月

1（日）●史蹟名勝天然紀念物保存法、施行。●箱根登山鉄道、箱根湯本―強羅間が開通。
2（月）●外務省、オムスクなどに四領事館開設。
3（火）●閣議、米価抑制のため外米の大量輸入を決定。
4（水）●朝鮮の竜山で第二〇師団が開庁式。
5（木）●上海の日系紡績工場で二万人が反日スト。
6（金）●鐘紡重役会、業績好調で株主配当七割を決定。
7（土）●愛知織物会社の女工二三〇〇人、三割の賃上げを要求（9日、五分賃上げで妥結）。
8（日）●日本禁酒同盟会、首相らに酒造廃止を申請。
9（月）●東洋拓殖㈱、朝鮮移民七五〇戸の募集開始。
10（火）●皇太子裕仁親王と久邇宮良子王女の婚約発表。●北京政府、ベルサイユ講和条約不調印を決定。
11（水）●中央気象台、津波、雷雨など観測範囲を拡大。
12（木）●東京株式取引所、空売買発覚のため臨時休業。
13（金）●台湾電力の株式募集に一二〇倍の応募者。
14（土）●米・ワシントンの労働者一万人、ビールやワインまで禁酒法の対象になることに反対のデモ。
15（日）●竹久夢二作画展、東京・三越で開催。●初の安全週間開始。「緑十字」印を採用。
16（月）●新劇協会第一回公演で、チェーホフの「叔父ワーニャ」を東京・有楽座で初演。
17（火）●大阪医師会、医科大教授の内職禁止を決定。
18（水）●地中海派遣の巡洋艦「日進」など九艦、戦利品のUボート七隻を率い横須賀に帰還。
19（木）●米国人のマービン、紐式パラシュート降下に成功。近代パラシュートの始まり。
20（金）●米国議会、婦人参政権認める憲法修正案可決。
21（土）●英海軍基地に抑留中の独軍艦が多数自沈する。
22（日）●独・バウアー新内閣、連合国の講和条約無条件受諾要求の受け入れを決定。国民議会も承認。●帝劇で山田耕筰帰朝歓迎音楽会を開演。
23（月）●警視庁が刑事課新設、初代課長に正力松太郎。
24（火）●度量衡および工業規格品統一調査会設立。
25（水）●鉄道院、夏休み帰省学生に運賃二割引き実施。
26（木）●米国で、見る新聞「デーリー・ニューズ」創刊。
27（金）●海軍兵学校入学競争率二・六倍に激減。経理学校は八・六倍に増加、功利時代反映と新聞に。
28（土）●ベルサイユ講和条約調印、国際連盟規約・国際労働条約調印（中国は講和条約に調印せず）。●東京俸給生活者同盟会（SMU）発会式。
29（日）●仏・リヨン大総長ら来日、東京帝大などで講義。
30（月）●海外在留日本人が米国中心に増加、前年比一五％増の五八万二四三五人と外務省。

「現場」を歩く

天王寺

労働問題研究に一八五万円を投じた財界人・大原孫三郎の“遺徳”

山本徹美

大正八年二月九日、大阪市南区天王寺下寺町に大原社会問題研究所が開設された。

創設者の大原孫三郎（三八＝倉敷紡績社長）はこれに先立つ大正六年、財団法人石井記念愛染園を発足させている。同園は孤児と貧民の救済、福利厚生に生涯をささげた石井十次の事業を継続すべく創設されたもので、同七年、園内本館に救済事業研究室を設置、それと併合する形で大原社会問題研究所がおかれた。

研究所は二部門からなっていた。第一部は細民への慈善事業に関係する救済問題部、第二部が社会問題部。「労働問題がわが国の将来を支配する重大問題となることを察知」（『回顧六十五年』昭和二八年、倉敷紡績）した大原は、何よりまず現状調査から着手し、徹底研究せよ、と私費を投じたのである。

大正八年一〇月、大原は南区天王寺伶人町の土地九六六坪を一〇万円で購入。ここに木造三階建ての本館（二〇四坪）、書庫、講堂などの建設にかかる。そして大正九年五月、落成。同七月から本格的活動に入った。東京帝大の高野岩三郎教授を所長に迎え、スタッフは一〇人。研究員は英独に留学、海外の情報、文献の収集にあたる。

大原が投じた私財は、二村一夫法政大学教授の調べでは、総額一八五万円。現在の貨幣価値で、一八五億円相当にものぼる巨費であった。

意義ある“散財”

伶人町を訪ねてみた。現在は「関西特許情報センター」の看板がかかり、塀の片隅に「大原社会問題研究所跡」とある。研究所は昭和一二年、土地と建物および約八万冊の蔵書を、大阪府に譲渡して東京に移転。同二四年、法政大学と合併し、二年後には法政大学大原社会問題研究所として財団法人の認可を受け、現在にいたる。

一方、大阪の研究所跡地は長らく図書館として使われていたが、平成九年四月から特許情報の拠点に生まれ変わった。

「大原社研から寄贈された書籍の中で、特許関係資料は今もここにあります」（同センター総務課）

石井記念愛染園は、現在も愛染橋病院などの運営をしている。

「当院は社会福祉法人なので、低額医療や無償診療なども行っています。理事長の大原眞佐子さんは、二代目理事長・大原總一郎氏の未亡人。愛染園と倉敷紡績関係者との縁はいまだに続いています」（愛染橋病院・佐々木正教総務部長）

東京専門学校（現・早稲田大学）の学生だった頃、放蕩が原因で故郷に強制的に連れ戻された孫三郎は、資本家となるや労働問題と貧民救済に“散財”。研究所への財政援助は昭和二一年で尽きたが、法政大学総長時代の大内兵衛（元研究員）が賞賛したように、彼は「散じることで成功した」希有な財界人だった。よきパトロンへの尊敬と愛着がその名を残させたのだと思う。

▲「近畿通商産業局特許室」「弁理士会近畿支部」などの組織が集中する「関西特許情報センター」。写真左下のプレートに、「大原社会問題研究所跡」の文字が。 但馬一憲

大阪市
関西特許情報センター
浪速区
四天王寺前駅
四天王寺
天王寺区
通天閣
地下鉄谷町線
天王寺公園
天王寺駅
西成区
大阪環状線
阿倍野区

法政大学大原社会問題研究所提供

▲大正15年当時の大原社会問題研究所所員。2列目の左から二人目が森戸辰男、右へ高野岩三郎、大内兵衛と続く。

ベストセラー
大正デモクラシーを反映！論壇・文壇の雄「改造」創刊

大正デモクラシーの高揚を反映して、雑誌「改造」がこの年四月に創刊された。創刊号の社説に「帝国の主動的講和条件」や「労働省を新設すべし」など、現実に即した政治的主張を掲げたり、与謝野晶子の「女子改造の基礎的考察」や安部磯雄の「労働者改造の急務」といった具体的提案を掲載するなど、積極的に社会にかかわっていく姿勢を鮮明に打ち出した。またその一方で、創刊号から幸田露伴の長編小説「運命」を掲載、後には志賀直哉の「暗夜行路」や中条（宮本）百合子の「伸子」を連載するなど、「中央公論」と並ぶ文壇の二大雑誌と目された。

この年創刊された雑誌には、ほかに大山郁夫が編集発行人となった「我等」や島崎藤村らを顧問に迎えた「解放」などがあり、論壇・文壇の動きは活発だった。

ところで、大正期にデビューした作家に佐藤春夫がおり、この年、その代表作である『田園の憂鬱』の決定版が刊行された。三年前にその一部が発表されてから、改作に改作を重ねてきたが、作者自身この本の解説で「作者は以後、本書をもつて定本としようとする！」と宣言して、やっと作品としての落ち着きを得た。作品では、主人公が都会の騒擾と田舎の大自然との間で揺れ動く様子を通して、時代の雰囲気を色濃く描き出した。

詩歌の方では、西條八十の詩集『砂金』が刊行され注目をあびた。「閃々として去来し、過ぎては遂に捉ふる事なき梢頭の風の如き心象……の記録を、出来得るかぎり完全に作り置かうとするのが私の願ひである」と記した詩人の、明治末年からこの年にいたる約八年間の仕事がまとめられた。「唄を忘れた／金糸雀は、／赤い緒紐で／くるくると／縛められて／砂の上。」（海のかなりや）など「終始自分の心象の完全な」（自序）表現を求める、特異な詩作品の数々がおさめられていた。

▲「改造」創刊号（改造社、60銭）

▲『砂金』（尚文堂書店、1円80銭）

▶『田園の憂鬱』（新潮社、1円50銭）

日本近代文学館提供（3点とも）

スターと名場面
グリフィス「イントレランス」入場料一〇円の超大作公開！

大正六年に当時としては画期的な映画理論を著した（『活動写真劇の創作と撮影法』）帰山教正がみずから監督して撮った劇映画が、この年公開された。「生の輝き」と「深山の乙女」で、両方の作品にヒロインとして登場した花柳はるみが、一躍スターダムにのしあがった。帰山教正は、もっぱら芝居を見るメディアとみなされ、そのように作られてきた映画を、独自の手法と面白さを持つメディアと考えるべきだとした。そして、これらの作品の撮影現場には、初めてシナリオというものが登場し、以後の映画製作に大きな影響をおよぼしたのである。

この年、映画界ではさらに大きな出来事があった。D・W・グリフィスの大作、アメリカ映画「イントレランス」が、帝国劇場で入場料一〇円と、大きな劇場のS席並みの料金で公開された。バビロンの時代から現代までを貫くスケールの大きさや、バビロン落城の驚異的な大スペクタクルシーンなどで人気を呼んだこともあって、映画のステイタスは一気に高まっていった。

またチャップリン人気はますます高くなり、この年は「犬の生活」が公開され、そのユーモラスな身のこなしとヒューマンタッチのストーリー展開が話題になった。

▲「深山の乙女」でヒロインを演じた花柳はるみ（中）と、近藤伊与吉（左）、青山杉作（右）。

▶巨大なセットを組んでバビロンの時代を描き出した「イントレランス」のスペクタクルシーン。

▼飄々とした演技で人気を呼んだ「犬の生活」のチャップリン。

マツダ映画社提供（3点とも）

モノ語り'19
これまでにない味や香りの“新感覚”派「カルピス」「キリン黒ビール」、そして香水の「雪姫」「月見草」

▲ビールも味を競う時代に　明治40年に株式会社として設立された麒麟麦酒（現・キリンビール）が、この年「キリン黒ビール」を発売した。原料として、普通の麦芽のほかに、麦芽に熱を加えて作るクリスタル麦芽を使用した、本格的な黒ビールだった。クリスタル麦芽ならではの味と香りが歓迎された。

◀給油設備が充実してきた　輸入自動車は目立つようになってきたものの、ガソリンの供給・貯蔵設備はまだ不十分だったこの年、龍野製作所（現・タツノ・メカトロニクス）が欧米のものにひけをとらない「タツノ式ガソリン計量機」を完成させ、評判を呼んだ。同じ頃、ガソリン供給ステーションもでき、和服姿の若い女性の働く姿が見られるようになった。写真は東京都港区の三田図書館前に現存する、この時のものと同型の計量機。ただし、ガソリン供給ホースははずされている。　港区立港郷土資料館蔵／江頭徹

▶暗い夜道を走る自転車必携　この頃、自転車にはまだ灯火システムがついていなかった。それで、暗い夜道を走る時には、蠟燭が光源で風防ガラスのついた「自転車用ランプ」を用いていた。　日本のあかり博物館蔵／江頭徹

「初恋の味」誕生秘話

写真は、カルピスが発売されて初めての新聞広告だが、「子供の営養、婦人の慰安」というかた苦しいコピーだった。しかし大正11年になって初めてあの有名なコピー「初恋の味」が広告に登場し、カルピスのイメージはがらりとソフトなものになる。

このコピーは、創業者・三島海雲の後輩で当時中学校教師だった驪城卓爾の提案によるもので、子どもに「初恋って何？」と聞かれたらどうする、という三島の問いに「初恋はカルピスの味がする」と言えばいいという返答を得て、大いに納得。コピーとして採用したと伝えられている。

▲新しい健康飲料が大評判に　この年の7月7日、日本初の乳酸菌飲料「カルピス」がラクトー（現・カルピス）から発売された。創業者・三島海雲がモンゴルで知った酸乳にヒントを得て開発、当時日本人に最も不足していたと言われるカルシウムを加え、日本人向けに味つけされたものだった。それまでの日本にはない健康飲料として人気を得たが、当時牛乳1本が7銭だったのに対し、400ミリリットル入りの瓶が1円60銭という高価なものだった。

◀国産の消しゴムが登場した　この頃の文具市場に出まわっていた消しゴムは、もっぱら輸入品だった。この年、後に日本を代表する消しゴムメーカーとなる白髭護謨工業所（現・ヒノデワシ）が創立され、日本での消しゴムの本格的な生産が始まり、商品名のない「消しゴム」として発売された。写真はJISマークが用いられるようになってからのものだが、形やマーク以外のデザインは当時と変わらない。

◀いかにも日本的な香水が人気　この頃の香水はパリからの輸入品か、それを模倣したものがほとんどだったが、大正7年に資生堂が梅や藤などの花の香りをモチーフにした、日本初の本格的な香水を発売。この年には「雪姫」や「月見草」という、花だけではなく自然のイメージから調香された香水も発売されて、新しい香水の時代を迎えた。

人物クローズアップ

北一輝（三六）

政府を震撼させた反国体的原理「国家改造案原理大綱」執筆！

大正八年八月、北一輝（三六）は滞在中の上海で、大日本帝国憲法に代わる新たな国家統合の原理として、「国家改造案原理大綱」を書きあげた。

北が上海に渡ってからすでに三年、中華民国（現・中華人民共和国）は袁世凱の死去以降、各地に軍閥が割拠し、それらが互いに争ういわゆる軍閥抗争期に入っていた。こうした中で、国民による民族の統合という中国革命に対する北の思惑はくずれ、彼は孤立無援の状態にあった。「国家改造案原理大綱」は、このような時期に書かれたのである。

八月一日、日本では国家主義者の満川亀太郎（三一）が大川周明（三二）らとともに、国家主義団体「猶存社」を創立した。ともすれば、〝国士〟型の右翼の域を出られなかった従来の右翼団体を、近代右翼に脱皮させ、国家改造とアジア民族の解放を推進しようというのが創立の目的だった。しかし、〝国家改造〟の具体案はまだできておらず、そのため彼らは、北の参加を熱望していたのである。

上海に北を訪ねた大川は、北の帰国をうながすとともに、「国家改造案原理大綱」の前半部を持ち帰る。これが後に『日本改造法案大綱』の題名で刊行され、反国体的書物として、日本政府を震撼させることになる。

北一輝は、新潟県佐渡郡湊町（現・両津市）の出身。明治一六年四月三日、酒造業と海産物問屋をいとなむ裕福な家の長男として生まれた。本名は輝次（輝次郎に改名）。しかし、北が成長するにつれ家運は傾き始め、北自身も右目の眼病（後に失明）に悩まされることになった。

明治三九年、二三歳の時に自費出版した処女作『国体論及び純正社会主義』が北を一躍有名にした。すぐに発禁となったものの、これが機縁となって中国革命の協力者・宮崎滔天らが主宰する「革命評論社」に参加。中国革命を支援する運動を繰り広げることになる。四四年、辛亥革命の勃発で中国に渡り、大正二年に三年間の国外退去となって帰国。四年、北は『支那革命外史』を執筆し、この著作が、満川、大川らとの関係を結ぶきっかけになった。そして翌五年、袁世凱病没の報を聞き、再び上海へ渡ったのである。

北はこの年一二月に帰国し、翌九年一月、「猶存社」に入った。

中国革命における経験をもとに書かれた『日本改造法案大綱』は、その後、北の門下である西田税に版権が渡され、西田の手によって流布された。昭和一一年二月二六日に勃発した「二・二六事件」は、その思想的根拠が『日本改造法案大綱』にあったとされるが、それは西田によるもので、北は直接関係してはいない。

北を浪漫的革命家とする評論家の松本健一氏は、北のめざした国家を次のように語る。

「北は浪漫の世界を描き続けた人で、しかも自己絶対主義者でした。天皇は国家の機関にすぎず、北の浪漫の世界が実現していれば、天皇絶対制に代わる北一輝独裁制になっていたでしょう」

昭和一二年八月一四日、北は「二・二六事件」の首謀者の一人として死刑の判決を受け、同月一九日に銃殺された。五四歳だった。

もし、天皇の号令一下クーデターを起こし、支配層を打倒するという北の浪漫が実現していたら……。それは政府にとって、何よりおそろしい事態であったことだけは間違いない。

▲北一輝は「二・二六事件」の黒幕として逮捕され、弟子の西田税とともに処刑された。二人の写真が並べられた北家の仏壇。

▲ガリ版刷りで秘密出版された「国家改造案原理大綱」。北は、出版法違反に問われ、罰金30円を科せられた。 石田雄・蔵

▲大正2年3月、革命家・宋教仁が袁世凱の手先により上海で暗殺された。写真は、その葬儀に列席した30歳の北一輝。北は、後に宋の亡霊を見ている。 松本健一提供

決定的瞬間

リープクネヒト、ローザ惨殺！ 〝一月闘争〟失敗で夢と消えた「スパルタクス団」の革命構想

詰めかけた群衆に向かって演説するカール・リープクネヒト（四八）。彼は一九一四年七月、第一次世界大戦が始まった時、国会議員として一人戦争反対を貫き、一六年には反逆罪で入獄していた。一八年一一月、戦争終結によって出獄した彼の「労働者が権力を持つ共和国を！」という叫びは、ベルリン市民の胸に力強く響いた。

第一次世界大戦で敗北したドイツは、一九一八年の一一月からこの年一九一九年の一月までの三ヵ月間、まさに混迷の渦の中にあった。一八年一一月九日の皇帝・ウィルヘルム二世（当時・五九歳）の退位後、国会で多数派を占めていた社会民主党が権力を譲り受け、同日、ドイツ共和国を宣言する。この変革を第一段階とすると、第二段階においては社会民主党（中道派）と、同党左派が一七年に分派してできた独立社会民主党、さらに独立社会民主党から分派した「スパルタクス団」（極左＝一九年一月一日に共産党を結成）など、社会主義者の間で左右の激しい主導権争いが繰り広げられた。

◀1918年のクリスマスに、公園で演説するリープクネヒト。ドイツは社会主義共和国として新しい道を歩むかに見えたが、3週間後、リープクネヒトはローザとともに虐殺される。

Ullstein　ユニフォト・プレス(2点とも)

「スパルタクス団」の著名な活動家、リープクネヒトとローザ・ルクセンブルク（四九）は、各地の集会を精力的にまわって、「スパルタクス団」の勢力拡張に奔走。ローザは、社会民主党の欺瞞性を激しく攻撃した。こうして左右の対立は激化し、社会民主党の機関誌が「ベルリンの労働者は、頭のコンパスを失ったように見える」と批判すると、激怒した労働者が発行所を占拠する、といった事件（一八年一二月二四日）も生じている。そして左派に属するベルリン警視総監・アイヒホルンを社会民主党（臨時政府）が強引に解任しようとしたことから、左右両派は激突することとなった。

▲ポーランド生まれのマルクス主義経済学者で、リープクネヒトとともに闘ったローザ・ルクセンブルク。

一九一九年一月五日、警視総監の解任は「革命への宣戦布告である」と主張する左派諸政党は、「諸君の自由がかかっている。諸君の将来がかかっている」と檄を飛ばして、ベルリンのアレキサンダー広場に二〇万人の労働者を集めた。街はまさに革命前夜の様相をおび、デモ隊は深い霧の中、党からの次の指令を待った。しかしデモ隊の主力となった「スパルタクス団」の指導部は、軍の支持取り付けに失敗し、デモ隊に政権獲得への明確な指示を与えることができなかった。

一方、社会民主党（臨時政府）は、グスターフ・ノスケを責任者とし、ベルリン郊外・ダーレムのルイーゼ女子学寮を本拠地として、敗戦は共産主義者の裏切りによるものだと考える帰還兵や市民など三〇〇〇人を集め、武器を与えて一月一二日からベルリンの鎮圧に乗り出してきた。こうして「一月闘争」（スパルタクス週間）は鎮圧され、〝共産主義政権誕生〟の夢は消えたのである。

この敗北によって、「スパルタクス団」の失ったものは大きかった。政権獲得への夢だけではなく、リープクネヒトとローザを惨殺されたのだ。二人の命には極右団体から賞金がかけられていたというが、一月一五日に二人は逮捕され、郊外のホテルに連行された。リープクネヒトは尋問の後、銃床で頭を殴られ、近くの公園で射殺、死体はその場に放置された。ローザ・ルクセンブルクも同じように頭を銃床で殴られ、射殺されたが、彼女の死体は運河に投げこまれ、発見されたのは四ヵ月余り後の五月三一日だった。

美の出会い

傷ついた想いのままに！ 恋人・彦乃の面影を求めて 竹久夢二、「黒船屋」を描く

個展を開けば文展よりも人が入ると言われるほどの、大正期の人気画家でデザイナー、イラストレーター、さらに詩人でもあった竹久夢二（三四）が、大正八年に東京・本郷にある菊富士ホテルで、代表作のひとつ「黒船屋」を描いた。モデルは一六歳の秋田生まれの美人・お葉であるが、この絵には夢二の永遠の恋人・彦乃への隠された想いがこめられている。

この作品について研究者の間では、ヨーロッパ世紀末芸術の影響が見られるなど、いろいろ論じられているが、竹久夢二伊香保記念館の学芸員・青木わかみさんは、次のように語る。

「胸を病んでいた彦乃と、無理やり引き離された直後の作品です。お葉をモデルにこの絵は描かれましたが、傷ついた夢二の胸のうちには、ただもう彦乃があるだけだったでしょう。思いつめた深い目の表情といい、彦乃を想って描いたとしか考えられません。夢二の絵には、実生活の悲しみや喜びがそのまま映し出された詩情があふれており、それが見る人を感動させるのでしょう」

この年、夢二は『山へよする』（新潮社）という絵入りの歌集や、昔の小唄集『露地の細道』、童謡集『歌時計』（ともに春陽堂）などを出版。精力的に仕事に打ちこんでいた。このうちの『山へよする』の表紙は、空に浮かぶ眼の形をした太陽から涙があふれ、地上から合掌した手が伸びて涙を受けている絵で飾られている。さらに後記には、次のような言葉が記されている。

〈『山へよする』一篇は、千九百十四年十月より千九百十八年十二月まで五年間に渉るHEとSHEとの恋の記述である。また彼等の愛の祈りである。〉

HEとは夢二であり、SHEとは東京・日本橋の紙問屋の娘・笠井彦乃である。

離婚はしたが、まだともに暮らしている岸たまきとの間に三人の子どもをもうけた夢二は、大正三年、一二歳年下の女子美術学校にかよう彦乃（当時・一八歳）と出会い、彦乃を傷つけることをおそれながらも、激しく惹かれていった。夢二にとって彦乃との五年間は、生涯で最も幸福な時であるとともに、最も悲嘆にくれた年月でもあった。大正七年の秋、肺を病んだ彦乃は、京都の病院に送られ、互いに会うことはかなわぬ境遇におちいったのである。傷心の最中に描かれた「黒船屋」には、夢二の悲しみと絶望の想いがこめられている。

大正九年一月、彦乃は永眠する。その後も、夢二は恋多き男として生き続けるが、彦乃への想いは消えることはなかった。「彼女が二十五で、私が三十七で死んだのです」など、しばしば自身が数え年三七歳で〝死んだ〟ことを書いている。夢二は彦乃の死とともに、みずからの生も終わってしまったのだと確信していたのである。

竹久夢二（本名・茂次郎）は、明治一七年九月一六日、岡山県邑久郡本庄村の酒取次販売業の二男として生まれた。明治三八年に早稲田実業学校本科卒業、専攻科に進む。同年、雑誌「中学世界」（博文館）に投稿したコマ絵が入選したのをきっかけに、挿絵の世界に入っていく。ついで「平民新聞」にコマ絵を描いていた明治四〇年、二歳年上で二四歳の岸たまきと結婚。美人でとりわけ大きく美しい眼を持つたまきにより、夢二独自の「美人画」が生まれる。明治四二年に刊行された最初の画集『夢二画集 春の巻』（洛陽堂）は、翌年までに七版を重ねた。

大正三年、日本橋区呉服町に絵はがきや小物を売る店「港屋」を開店。「やさしいもの」「かわいいもの」を愛でる大正期の風潮を追い風に、爆発的な夢二ブームを巻き起こした。異国情緒とノスタルジックな香りの漂う夢二の絵に魅せられた若い女性たちは、競って「夢二グッズ」を求めたのである。魅せられたのは娘ばかりではなかった。後に創作版画のリーダーとなる恩地孝四郎、二科会を背負うことになる東郷青児ら、若い画家たちも夢二のもとにかよったのである。初期から夢二の真価を認めていた画家の有島生馬は、こう記している。

「私は未だに夢二を明治大正の不滅な風俗画家と信じ愛してゐる。センティメンタルな時代の感情や、風俗を夢二位よく後世に伝へ得る画人が他にあるであらうか」（「夢二追憶」）

いかなる画壇にも属さなかった夢二は、終生「えをかくこと」を貫いた人だった。画家としての評価も高く、昭和三〇年代をすぎた頃、再度夢二ブームが起こるなど、無視できない存在となっている。

竹久夢二伊香保記念館蔵

▲セノオ楽譜の装画。大正6年。音楽出版社のセノオ楽譜に、夢二は大正5年から11年間、277点もの装画を描いている。夢二風「美人画」の成熟期を飾る作品。

堀内寛・蔵 平凡社提供

▲「港屋」開店にあたり配布した風呂敷。たまきの店として開かれた港屋では、夢二がデザインしたカードや絵本、詩集、千代紙、帯などを扱っていた。

竹久夢二美術館提供

▲大正6年9月、石川県湯涌（ゆわく）温泉に旅した夢二と彦乃。

◀「黒船屋」。大正8年。絹本着色、130×50.6センチ。夢二はほかにも数点、黒猫と女性をモチーフにした作品を残している。黒猫は、彦乃の体をむしばむ病を表現しているという説もある。

竹久夢二伊香保記念館蔵

20世紀博物館

榛東村耳飾り館

〝人はなぜ耳を飾るのか〟の答えを求めて縄文時代にまでさかのぼる

群馬・榛東村

桑原茂夫

◀大小さまざま、多種多様な縄文期の耳飾り。ひとつひとつに、大昔のドラマが秘められているようで楽しい。

榛東村耳飾り館提供（4点とも）

群馬県は榛名山の麓にこの「榛東村耳飾り館」がある。古今東西の耳飾りを集めた珍しいミュージアムなのだが、なぜこの地に耳飾りのミュージアムがあるのか。榛名山の東側に位置する榛東村とアクセサリーとしての耳飾りとの接点をたどると、はるか縄文の時代にまでさかのぼっていくことになる。

平成元年、この地で縄文時代の遺跡（茅野遺跡と名づけられた）が発掘され、そこから五七七点という大量の耳飾りが発見されたのである。わずか数世帯と推定される小さな集落に、これだけ大量の耳飾りがあったのはなぜか——大いに想像力を刺激されるところではあるが、それはさておいて、この発見を機に、広く世界から耳飾りをコレクションする耳飾りミュージアムの建設構想が、翌平成二年に浮上し、平成四年開館の運びとなった。同じ年に、この遺跡から出土した耳飾りを含む二〇〇〇点近くの遺物が国の重要文化財に指定されている。

館内は大きく分けて、世界各地の耳飾りを展示しているコーナーと、遺跡の全体像と発掘された耳飾りを展示するコーナーからなっている。入館してすぐに世界の耳飾りコーナーを見てまわることになるのだが、のっけから古代オリエントのものと推定されている金製の耳飾りに出合う。獅子頭がついたものや人物をかたどった耳飾りで、その高級感にまず圧倒され、さらに世界各地の多様な素材と凝ったデザインによる耳飾りを見ていくうちに、基本的な疑問が膨れあがってきた。

ネジでとめる方式のイヤリングが登場するまでは、当然のことながら耳に穴を開けて身につけるピアス方式だったのだが、それにしても〝なぜ人は体に穴を穿ってまで耳を飾りたがるのか〟という疑問である。学芸員の中村祥子さんも同じ疑問にとらわれていて、いまだに納得のいく答えは得られていないようだった。

▼発掘された茅野遺跡の様子を再現したジオラマ。榛名山の噴火による火山灰が、この遺跡を守ったと考えられている。

さて、縄文期の耳飾りだが、これも耳たぶに穴を穿ち、そこに耳飾り全体を嵌めこむ方式のものと、一部分を嵌めてぶら下げる方式のものとがある。全体を嵌めこむものには、直径五チセンはあろうかという大きなものもある。どうやって嵌めこむかというと、小さな耳飾りから次第に大きなものに変えていけば、穴の伸縮性も大きくなり、十分嵌めこめるようになるのだそうだ。

デザインはいろいろで、複雑なものになると、洒落た曲線を組み合わせた幾何学模様や、対称図形を組み合わせたものなどがあり、当時の美意識や技術レベルの高さをうかがわせる。

というところで、これだけ多種多様な耳飾りがなぜこの小さな集落から出土したかという当初の疑問に舞い戻る。そして、ここには専門家の工房があって、耳飾りをほかの集落の食糧などと交換したりしていたのではないかという、楽しい説を支持したくなってくる。展示されている耳飾りのみごとな出来映えが、そんな想像をかきたてるのだ。

▲世界の耳飾りコーナーの一部。左手前から、アイヌ民族、インド、中国の耳飾りが展示してあり、右奥には昭和初期の宝塚のスターが耳飾りをつけた写真が飾ってある。

▲縄文期の耳飾りの中には、このようなデリケートなデザインを持つものも少なくない。

●榛東村耳飾り館

群馬県北群馬郡榛東村山子田一九一二

☎〇二七九—五四—一一三三

JR上越線渋川駅から車で二〇分

開館時間＝九時～一七時

休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）

入館料＝一般五〇〇円

わずか4年で終わった「浅草オペラ」熱狂記

一高生・川端康成らもスターに殺到！

人気女優・高木徳子の〝絶頂と死〟

◀根岸歌劇団公演、「マルタ」の舞台。左から田谷力三（ライオネル）、清水静子（レディ・ハリエット）、清水金太郎（プランケット）。

大正五年にスタートした高木徳子、伊庭孝による浅草オペラは、本来のオペラとは似ても似つかないものだった。むしろ今のミュージカルの原型と言ってよい。嵐のようなブームは瞬時に去ったが、藤原義江、田谷力三などがここから世に出る。その意味で、浅草オペラは日本のオペラの出発点だったと言えよう。

「女軍出征」がヒット浅草オペラの幕開き

大正八年三月一九日、福岡県飯塚町にある飯塚座は、春一番の風が吹き荒れていたにもかかわらず、続々と詰めかけた観客で立錐の余地もないほどに膨れあがり、開演一時間前には早くも満員札止めとなった。演し物は「薄倖の人々」。開演を催促する手拍子が観客全員に広がり、「トクコ」「トクコ」と唱和する声が場内をどよめかせた。「トクコ」と熱狂的にその名を呼ばれた女優は、浅草オペラの大スターで、日本初のミュージカル女優として人気絶頂だった永井（高木改め）徳子（二九）である。

◀浅草六区の南端にあった金龍館。浅草オペラを上演した代表的な劇場。

徳子の名を全国的にしたのは、定職を持たず、ひも気取りで、不仲になってからは公演妨害までした夫・高木陳平（四一）に対する離婚訴訟であった。新時代の女性の代表として扱われ、新聞や雑誌で「問題の女」というキャッチフレーズをつけられたのである。彼女の踊りは本物だという評判だったが、むしろ「問題の女　出現！」という新聞広告に躍った大見出しが、徳子一座の旅巡業を成功させたと言ってよい。この飯塚での興行は、徳子が、三〇〇〇円の慰謝料を払って夫との関係を清算してから三ヵ月目のことだった。

永井徳子は明治二三年、東京・神田の三崎町生まれ。一六歳の時

▶大正9年5月、新星歌舞劇団公演の「ファウスト」出演者。後列左から清水静子、清水金太郎、竹内平吉、伊庭孝、戸山英二郎（藤原義江）、安藤文子、田谷力三。 雄山閣出版提供

に結婚し、明治三九年、夫・高木陳平に従って渡米した。徳子の才能に目をつけた陳平は、ボードビル全盛期のアメリカで、バレエ、スペイン舞踊などあらゆる種類の舞踊と歌を身につけさせた。大正三年に帰国、大正四年の二月には帝劇の舞台で、アメリカ仕込みの鮮やかなトウ・ダンス（バレエ・シューズの爪先で立って踊る）を披露して、徳子は一躍有名になった。

「新劇の有能な演出家だった伊庭孝が、徳子と出会ったのは、大正五年六月頃です。帝劇や赤坂・ローヤル館で失敗したオペラを、浅草という興行の中心地で試そうとしていた伊庭と、芸の世界で真の協力者を切望していた徳子が結びつくのはごく自然なことでした」（『浅草オペラ物語』の著者、増井敬二氏）

伊庭孝（当時・二九歳）は、解散した帝劇洋劇部のメンバーに、門下生や徳子の弟子を加えて一座を組み、川上貞奴の一座と合同で一〇月一日から甲府の桜座に出演した。

大正六年二月、彼の創作による「女軍出征」が浅草・常盤座にかかる。音楽の素人が作ったのだから、本格的なオペラではない。第一次世界大戦中に流行した「チッペラリーの歌」「ダブリン・ベイズ・ソング」を挿入した西洋茶番にすぎなかった。つまり、内容をレベルダウンして、オペラの大衆化をはかったのだ。これが爆発的に当たったのである。「高木徳子の歌う『チッペラリーの歌』は、街々に氾濫し、銭湯で誰かが口ずさむとたちまち大合唱が起こる」（内山惣十郎『浅草オペラの生活』）ほどだった。

さらに「女軍」という言葉の持つエロチシズムへの連想も、大衆の好みを刺激した。浅草オペラ時代の幕開きである。

▲大正元年来日したローシー。浅草オペラ開幕前に、日本にオペラを根づかせようとした振付師。

観客を熱狂させたオペラ女優の魅力

大正六年一〇月、浅草初のオペラ常設館・日本館に、石井漠（当時・二〇歳）の東京歌劇座の公演がかかって以降、浅草オペラは全盛期を迎える。帝劇一のバレリーナだった沢モリノ（当時・二七歳）、セックスアピール抜群の河合澄子（当時・二四歳）などがこの一座の花形スターで、一高時代の川端康成（当時・一七歳）をはじめ学生を熱狂させた。鈴木康義の東京少女歌劇団が三友館にかかったのも、この頃。白川澄子（当時・一七歳）が、河合澄子に対抗するスターであった。

明けて大正七年一月には、帝劇の"大御所"清水金太郎（当時・三〇歳）・静子夫妻が日本館で「天国と地獄」を上演↖

して、浅草に初めて外国の名作オペレッタ（喜歌劇）を持ちこんだ。続いて同年三月に、赤坂・ローヤル館のプリマドンナで振付師・ローシーの秘蔵っ子、後にミラノ・スカラ座の専属歌手となった原信子（当時・二四歳）が観音劇場に出演する。

原信子歌劇団には売り出し中の浅草オペラきっての花形テナー・田谷力三（当時・一九歳）がいた。田谷は声楽家と言ってもよい美声の持ち主で、本格オペラに近いものが上演されるようになったわけだが、観客は、オペラの常識には縁遠かった。彼が現れると男性は「タヤ、タヤ！」と叫び、女性は「リキチャン！」と花束を投げつける。およそオペラハウスの雰囲気ではなかった。

藤原義江（当時・二〇歳）は、澤田正二郎の新国劇をやめ、田谷の歌にあこがれ、伊庭や徳子と近づきになって大正七年四月に日本館のアサヒ歌劇団に身を投じたが、この馬鹿騒ぎには幻滅した一人だった。

「客の多くは高木徳子の舞踏や、伊庭孝のあかぬけした寸劇より、少女歌劇の連中が（中略）、思いきり足をあげてさえいればそれがなによりいいのであった」（藤原義江『自画像』）

大正期の前半は、川上貞奴、松井須磨子、高木徳子などの女優が次々と世に出たわが国初の"女優時代"で、浅草オペラの大きな魅力は、オペラ女優の魅力にあったのだが、後年は藤原の指摘するように低俗化の一途をたどる。

永井徳子が数奇な運命の短い一生を終えたのは、そんな最中であった。

「徳子、発狂か！ 巡業先に病む」（「都新聞」大正八年三月三〇日）

冒頭の飯塚座での公演中に、永井徳子は倒れた。持病のヒステリーが悪化し、心臓病を併発していた。「口惜しい！口惜しい！」と華奢な体をのけぞらせ、狂おしげに叫びながら苦しんだという。三月二九日夜半から昏睡状態におちいった徳子は、翌三〇日午前九時二〇分、忽然と世を去った。死因は心臓麻痺だった。「巨星墜つ！」、新聞、雑誌はこぞって哀悼の意を表した。永井徳子の死と作品の低俗化によって、浅草オペラ熱狂時代は去り、大正一二年の関東大震災で、劇場、大小道具、衣裳、楽譜にいたるまでが失われた。

雄山閣出版提供

▲トウ・ダンスを踊る高木徳子。大正4年、帝劇の「夢幻的バレエ」で評判に。

▶大正四年九月、「ボッカチオ」に出演した原信子。

▲「ボッカチオ」の田谷力三。 台東区提供

▶横浜朝日座で「カルメン」を演じる河合澄子。

津島利章蔵

沢田城子蔵

▲竹久夢二が描いた浅草オペラの楽譜カバー。左が「椿姫」、右は「船唄」。

フォト＋日録で再現する365日

成巽閣提供

▲講和と開通のダブル祝賀（7月1日）2月に市内電車が走ったばかりの金沢で、第1次大戦講和記念に花電車を運転。大にぎわいとなった。写真は橋場町界隈。

▶宝塚のスター・雲井浪子、結婚（7月21日）新郎は坪内逍遥の長男で離婚歴のある脚本家・坪内士行（31）。浪子（19）が、士行作の歌劇に出演したのが機縁。

「写真通信」

▲本土縦断マラソン完走（8月10日）前月23日、下関を出発した金栗四三（27）と秋葉祐三（26）が、約1143キロを走破、酷暑の中を日比谷公園に到着した。

▲東京16新聞社の印刷工が統一スト（7月30日）8時間労働と増給を要求。新聞連盟は一斉休刊・全員解雇で対抗。休刊4日目で組合は敗北した。写真は、8月に開催の組合大会。

「写真通信」

▲上野動物園にカバ到着（8月13日）京城（ソウル）の李王職動物園で生まれたメスで1歳。新築のカバ室に収容、「京子」と名づけられた。昭和20年に殺されるまで人気者だった。

「写真タイムス」

▲板垣退助が死去（7月16日）「自由は死せず」と叫んだ、自由民権の闘士の静かな死だった。82歳。写真は20日、故人が好きだった力士にかつがれる柩。

Granger Collection／デジタルハウス

▲デンプシー、新チャンピオンに（7月4日）米・オハイオ州で行われた世界ヘビー級戦で、1914年から王座を保持するウィラードを圧倒、3回ＫＯ。24歳の「マナッサの殺し屋」が世界に躍り出た。

▶東京・芝浦にＵボート（7月11日）大戦で連合国を恐怖におとしいれた独軍潜水艦は、各国に分配され、日本は7隻獲得。6月に到着し、この日芝浦で公開された。

「写真通信」

「写真通信」

▼明治神宮が上棟祭（7月12日）明治天皇・昭憲皇太后を祀るため、建築中の社殿が棟上げを迎えた。写真は棟木をかつぐ大工。翌年完成、各地から10万本の献木が寄せられた。

▲貯金デー（8月8日）全国で実施。東京では郵便貯金局が音頭をとり、神田・天保銭会館の号砲を合図に、小石川・浅草など各地域少年団が宣伝につとめた。この日、各局貯金窓口は大混雑だった。

「写真通信」

▲平和記念家庭博覧会の会場焼く（8月21日）深夜、寿司売店から出火。上野不忍池畔に設けた会場建物に次々延焼、大半を焼き尽くし第1次大戦の講和の象徴、ベルサイユ宮殿の模型も灰燼に帰した。

「写真通信」

「写真通信」

▲神戸一中、優勝（8月19日）阪神間の鳴尾グラウンドで、五万余人の大観衆を集め、第5回中等学校野球大会の決勝戦を開催。神戸一中は長野師範を激戦のすえ、7対4で破り優勝旗を手にした。

大正8年7月

1（火）●大阪市、国内初の市立児童相談所を開設（11日、市立託児所を開設）。
2（水）●英飛行船、大西洋横断に初挑戦（6日、成功）。
3（木）●国際汽船㈱、神戸に設立。大戦後の海運不況打開のため政府が支援（後に大阪商船に合併）。
4（金）●米のＪ・デンプシー、五年間王者だったＪ・ウィラードを破り世界ヘビー級王座を奪う。
5（土）●中国地方に豪雨、山陽・山陰線が各地で不通。
6（日）●東京外国語学校、朝鮮語科復活を決める。
7（月）●東京のラクトー㈱、乳酸飲料「カルピス」発売。
●独議会、ベルサイユ講和条約を批准（12日、連合国対独封鎖を解除、通商関係回復へ）。
8（火）●和歌山市会、公娼設置案を可決。
9（水）●臨時財政経済調査会を設置。
10（木）●米上院で講和条約批准の審議開始。
11（金）●映画好きの学生が同好雑誌「キネマ旬報」創刊。
●鉄道院、三交替勤務の八時間労働実施を発表。
12（土）●明治神宮上棟式を挙行。
13（日）●米国、金の輸出禁止を解除（正貨流入が激増）。
14（月）●小学校教員優遇令公布、生活の安定をはかる。
15（火）●米国の大戦での徴兵忌避者三三万七六四九人。
16（水）●板垣退助、東京の自宅で死去、八二歳。
17（木）●特設消防署規程公布、大阪・京都・神奈川・兵庫・愛知に官設消防署を設置。
18（金）●京城に朝鮮神社を創建し、官幣大社に列する。
19（土）●長春近郊の寛城子で日中両軍衝突。日本軍戦死一八人（20日撤兵協定。9月中国側謝罪）。
20（日）●大阪砲兵工廠で組合結成の自由を求めてスト。
21（月）●東京書籍商組合、書籍出版後六ヵ月以内の定価販売を決める（12月1日、実施）。
22（火）●農商務省、米価高騰抑制で全国に節米を通達。
23（水）●東京高師の、金栗四三と秋葉祐三、東京めざし下関を出発（8月10日、一九日間かけ東京着）。
24（木）●鉄道院、一年間米穀無賃、雑穀三割引き輸送実施を発表（28日、米価の低落始まる）。
25（金）●ソビエト、帝政ロシア時代の中国での利権と不平等条約破棄を宣言（カラハン宣言）。
26（土）●東京市の市営住宅建築候補地内定、と新聞に。
27（日）●銀座通りで警官の手信号による初の交通整理。
28（月）●対中国輸出は排日運動のため三割減と新聞に。
29（火）●中橋文相、口語文奨励のため初の口語訓令。
30（水）●東京の新聞印刷工組合が賃上げスト。日刊一六社が対抗し三一日から休刊（8月4日解決）。
31（木）●独憲法制定国民議会、ワイマール憲法を採択。

大正8年8月

1（金）●満川亀太郎、大川周明らが「猶存社」結成。
2（土）●横浜地裁、四月の横浜大火で火元とされた四八歳の女性に、証拠不充分で無罪判決。
3（日）●高田輜重隊、軍馬で白馬岳登頂に挑戦（成功）。
4（月）●埼玉師範教官の下中弥三郎ら、埼玉県で初の小学校教員団体「啓明会」結成し発会式。
5（火）●逓信省に航空事業調査会を設置。
6（水）●賀川豊彦、消費組合「共益社」を設立。
●タバコ値上げ。「バット」六銭が七銭に。
7（木）●蔵相・高橋是清、憲政会の金融引き締め論に、物価高騰は投機が原因と非収縮策維持を言明。
●チャップリンの「犬の生活」、浅草で封切。
8（金）●山崎今朝弥ら、平民大学夏期講習会を開催。
9（土）●英がイランと秘密協定、保護領化をはかる。
10（日）●両国国技館、大鉄傘のもとで上棟式を挙行。
11（月）●宮内省、英から新種馬五頭購入。栗毛のサラブレッドは二万三〇〇〇円の八歳馬。
12（火）●海軍大将・斎藤実を現役復帰させ朝鮮総督に。
13（水）●上野動物園に朝鮮・李王家寄贈のカバ到着。
14（木）●憲政会、物価政策に反対し内閣弾劾大演説会。
15（金）●海軍運搬船「志自岐丸」、暴風雨のため種子島沖で沈没。一一一人が死亡。
16（土）●狩猟法改正、保護制やめ四七種を許可制に。
17（日）●政府、外米払い下げ実施（12月までに八回）。
18（月）●東京・本所でコレラ発生、交通遮断し消毒。
19（火）●中学野球大会、神戸一中が長野師範破り優勝。
20（水）●朝鮮総督府官制・台湾総督府官制を改正。文官総督を認め、武断政治から文治化をはかる。
21（木）●井上友子、米国で開催の万国女医大会に出発。
22（金）●独の貴重な美術品や学術書など、マルクの異常な安さのため海外流出が激しい、と外電。
23（土）●東京砲兵工廠職工六〇〇〇人、賃上げなど求めスト（28日軍隊出動、30日争議団敗北）。
●北一輝、上海で「国家改造案原理大綱」を脱稿。
24（日）●西園寺講和特使、東京駅帰着。四千余人が歓迎。
25（月）●『東京朝日新聞縮刷版』創刊。一円五〇銭。
26（火）●ロンドン―パリ間に定期旅客航空路開設。
27（水）●逓信省、外国電報の検閲を全面廃止。
28（木）●映画収入好調、日活が一割増の三割配当決定。
29（金）●大阪工業会、八時間労働制容認などを決議。
30（土）●友愛会、大日本労働総同盟友愛会と改称。鈴木文治会長の権限縮小し合議制採用。
31（日）●米社会党のジョン・リード派が共産主義労働党結成（9月2日、ミシガン派は共産党創立）。

▲「鈴弁殺し」公判（9月16日）農商務省技師・山田憲（被告席・左）が、米成金の鈴木弁蔵をだまして、株の借金の穴埋めを画策し殺害。「大正バブル」に踊った高級官吏の末路が明らかになった。判決は死刑だった。

「写真通信」

▲神戸・川崎造船所職工がサボタージュ（9月18日）8時間労働制など求め1万6000人が、作業しながら生産しない新戦術「サボ」で、勝利。写真は、賀川豊彦（右）ら争議団指導部。

▲「高声電話」実験（9月9日）米国製高声電話機の威力を、東京・日比谷公園で確認。受話器の声は、木の枝に設置した拡声器を通して聞くことができた。

「写真通信」

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲大阪国技館が落成（9月12日）新世界に建築、大阪相撲の意地を示し東京国技館と同じ1万人の収容能力を誇った。翌日、東西合併大相撲を催し、開館を祝った。

◀帝国美術院、初総会開く（9月13日）文部省主催、森鷗外院長のもと従来の文展に代わる帝展の開催などを協議。写真中央・森、右・正木直彦、左端・高村光雲。

『警視庁百年の歩み』

▲初の交通信号機登場（9月）警視庁は激増する交通事故防止のため、15日からその規制・整理に乗り出し、「トマレ・ススメ」の木製回転式信号機を、上野広小路に設置した。

大正8年9月

1（月）●寿屋、「トリスウイスキー」を発売。

2（火）●京城で新任の朝鮮総督・斎藤実に、姜宇奎が爆弾投擲。随行員三四人死傷、斎藤は無事。

3（水）●東京市電従業員ら、日本交通労働組合結成。

4（木）●ケマル・パシャらのトルコ国民会議開会（9日、連合国の占領に反対するシバス宣言採択）。

5（金）●帝国美術院を設置（初代院長・森鷗外）。

6（土）●物価高騰で一ヵ月の学費四〇円以上と新聞に。

7（日）●大阪朝日新聞社など三社、日曜日の夕刊廃止。

8（月）●堺セルロイドなど八社が合併し、大日本セルロイド（現・ダイセル化学工業）設立。

9（火）●ボストンで全米初の警官スト（11日、州知事が州兵を派遣し一一一七人の参加者を解任）。

10（水）●オーストリア、連合国とのサンジェルマン講和条約に調印。オーストリア帝国解体。

11（木）●外務次官・幣原喜重郎を駐米大使に任命。

12（金）●独労働者党大会でヒトラーが反講和の演説。

13（土）●大阪国技館竣成記念、東西合併大相撲が開幕。
●帰山教正監督の劇映画「生の輝き」封切。

14（日）●東京酒類商組合、月一回の定休日決定。「御用聞き」二万人が一斉休業（19日、実施）。

15（月）●国際労働会議（ILO）の労働代表員選定協議会で、官選に反対の友愛会・信友会が退場。

16（火）●東京地裁、五月の「鈴弁殺し事件」第一回公判。二八〇の傍聴席に早朝から二千余人殺到。

17（水）●全国の稲作予想は大豊作、好天と高米価で農家の施肥量が二割方ふえたためと農商務省。

18（木）●神戸・川崎造船所職工が待遇改善・賃上げを要求しサボタージュ（29日、八時間労働制獲得）。

19（金）●文部省、児童生徒の近視増加に予防法を訓達。

20（土）●若手学者の独への留学希望が激増、と新聞に。

21（日）●オリエント急行が全線で運行を再開。

22（月）●九州帝大、都市計画講座の新設を決める。

23（火）●生糸市場、製糸女工不足と秋繭減収で高騰。

24（水）●全国府県会議員選挙。政友会が圧勝する。

25（木）●医師会令公布（10月1日施行）。

26（金）●原料費の高騰で豆腐を四銭から五銭に値上げ。

27（土）●共同漁業（現・日本水産）、設立。

28（日）●神戸で政府輸入米売り出し。まずくて売れないと仲買商が買い控え、約三割売れ残り。

29（月）●海軍省、職工の賃金改定。最低日給七二銭を二倍、最高一円七〇銭を一・六倍に増額。

30（火）●東京帝大教授・高野岩三郎、ILO労働代表を友愛会の反対で辞退、大学にも辞表提出。

「写真通信」

▲国際労働会議代表、出発（10月10日）米国での第1回会議委員が、労働者の反対で難航したがようやく決定。武藤山治（左）、鎌田栄吉（右）、桝本卯平ら。

証言・あの日この日
大杉　栄（34）

近藤千浪提供

8月1日（金）〈まだ、どうも、本当に落ちつかない。いくら馴れているからと言っても、そうすぐにアトホームとはいかない。監獄は僕のエレメントじゃないんだからね。まず南京虫との妥協が何とかつかなければ駄目だ。次には蚊と蚤だ。来た三晩ばかりは一睡もしなかった。警視庁での二晩と合せて五晩だ〉（大杉栄『大杉栄書簡集』）

いつも警察の尾行につきまとわれていた大杉栄は、とうとう巡査殴打事件を起こし、収監される。これまで入獄、出獄を何回も繰り返してきた大杉も、さすがに南京虫、蚊、蚤の三段攻撃には勝てず不眠の夜が続く。しかし何事にも楽観的な大杉は続けてこう書く、〈何が来ようと、どんなにかゆくとも痛くとも、とにかく眠るようになる。今では睡眠時間の半分は寝る〉〈こういう難行苦行の真似も、ちょっと面白いものだ〉。（山崎行太郎）

「写真通信」

▲満州倶楽部野球団が来日（10月6日）豪腕豪打の評判高い実業団チームに、4大学と一高が挑戦。9日、早大球場の第1戦（写真）では法大を13対2で破るなど、全勝した。

「写真通信」

◀郵便飛行レース開催（10月22日）東京・洲崎埋め立て地と大阪・城東練兵場間を郵便を積んで往復。3機出場し、佐藤要蔵（写真）の中島4型機が、6時間58分で優勝した。

「写真タイムス」

▼松沢病院が開院（10月3日）東京府立巣鴨病院が呉秀三院長の「患者一人に100坪の土地を」の理想から、荏原郡松沢村（現・世田谷区上北沢）に移転、名称も改めた。

「写真通信」（右も）

▲元帥刀を親授（10月20日）日露戦争で活躍した川村景明（69、左）と、前年まで首相の寺内正毅（67、右）両元陸軍元帥が受けた。寺内はこの時、重体。刀は翌月3日、寺内の柩にそえられた。

大正8年10月

1（水）●三菱合資銀行部が独立、三菱銀行開業。

2（木）●仏国民議会、ベルサイユ講和条約を承認。

3（金）●大杉栄を刺して服役していた神近市子が出獄。

4（土）●ILOの政府代表に鎌田栄吉、資本家代表に武藤山治、労働代表に桝本卯平を任命。

5（日）●三越呉服店、業界初の定休日実施（月二回）。

6（月）●日銀、公定歩合を二厘引き上げ二銭に（11月9日、二厘引き上げ、明治38年以来最高）。

7（火）●政友会本部、放火により全焼。
●中村鴈治郎、「藤十郎の恋」を浪花座で初演。

8（水）●東京の物価続騰、前年同月比二三%高と日銀。

9（木）●床次内相、侠客代表三六人に会見（11月14日関東、関西の侠客が大日本国粋会結成）。

10（金）●孫文らの中華革命党、中国国民党と改称、秘密結社から大衆を基盤にする政党に改組。
●連合国、対ソビエト経済封鎖を実施。

11（土）●豊作の新米が出まわり、正米相場が下落。

12（日）●全国中学雄弁大会、東京で開催。三〇校参加。

13（月）●米英仏日など国際航空条約締結、領空権確定。

14（火）●帝国美術院、第一回美術展覧会（帝展）を開催。

15（水）●東京の銭湯値上げ。四銭を五銭に（20日実施）。

16（木）●浅原健三ら、八幡製鉄所職工を中心に、労働組合・日本労友会を結成。

17（金）●信越線碓氷トンネルで機関士窒息し列車遅延。

18（土）●鈴木三重吉編『赤い鳥』童謡」発売。西條八十「かなりや」、北原白秋「雨」など掲載。

19（日）●英軍支援のユデーニチ率いる白衛軍、ペトログラードに迫る（21日、赤軍が反撃開始）。

20（月）●大蔵省、各府県に投機用融資の取締りを要請。

21（火）●農商務省、期米市場の外米代用制廃止を決定。

22（水）●東京―大阪間で初の郵便飛行競技大会。三機参加、佐藤要蔵が往復六時間五八分で優勝。

23（木）●東京市、一〇六四戸の公営住宅建設を決定。

24（金）●千葉県野島崎沖の海軍大演習で、軍艦「日向」の主砲が破裂し一三人即死、一七人重傷。

25（土）●新人会、民人同盟会などが青年文化同盟結成。

26（日）●松本幸四郎らの新歌舞伎研究会、第一回公演。
●陸海蔵三相会議、海軍の八八艦隊復活に合意。

27（月）●臨時枢密院御前会議、講和条約を承認。

28（火）●米議会、禁酒法を可決（翌年1月、実施）。

29（水）●ワシントンで第一回国際労働会議を開催。
●台湾総督に最初の文官総督・田健治郎を任命。

30（木）●東京上空の飛行機から初の映画撮影。

31（金）●夜会開催中の外務大臣官邸付近で爆弾が破裂。

「写真通信」

▲台湾に初の文官総督（11月6日）世論の趨勢に押され、原首相が前月29日の閣議で決定。前逓相、官僚派の首相候補の一人、田健治郎(64)が赴任した。

◀第1回関西婦人団体連合大会開く（11月24日）大阪朝日新聞社が主催。四千余人の前で平塚らいてう（右端）が、「婦人の団結を」と、新組織結成を発表した。

大月書店提供

▶初の対校競漕（11月25日）東京・隅田川で約20万人の応援を受け、外語対高工が1100、帝大対早大が3200メートルを力漕、外語と帝大が勝った。

「写真通信」

▼東京―神戸間で道路調査（11月23日）内務省の道路改良会が無蓋車5台をつらね、国道を5日間かけ踏査。軍事・産業上から見た国道の調査が目的だった。

「写真通信」

◀戦艦「長門」が進水（11月9日）米海軍の増強に対抗、世界初の16インチ砲搭載の超弩級戦艦。11年間連合艦隊の旗艦をつとめ、太平洋戦争に出撃。戦後、米国の原爆実験の標的となり沈没した。

「写真通信」

▲特別大演習に伝書鳩使用（11月11日）兵庫県の加古川付近の攻防戦に、フランスから購入した鳩の2世、200羽が参加。46キロを42分で飛び、統監部に通信をもたらすなどの殊勲をあげた。

大正8年11月

1（土）●大阪・堺で第一回全国学生相撲大会。
2（日）●日本の造船額は米英に次ぎ世界三位と新聞に。
3（月）●東京・三越の衣類、雑貨、食料品の初の半額セール「木綿デー」に三万余人が殺到。
4（火）●陸軍省、シベリア派遣軍兵士の留守家族に防寒具の展示・説明運動を開始。
5（水）●第二高等学校、生徒の自覚尊重し出席点廃止。
6（木）●大阪で国民禁酒同盟が発会式。
7（金）●帝国火薬工業㈱設立（資本金一〇〇〇万円）。
8（土）●女子学習院常盤会が東京で恤兵バザー。
●東京・横浜の税吏瀆職事件で税務署員三五人、小売店主ら一二八人を起訴。
9（日）●呉工廠で戦艦「長門」命名と進水式挙行。
10（月）●岩手県釜石鉱山で約六〇〇〇人がスト（12月2日軍隊出動し四〇〇人検挙、5日会社譲歩）。
11（火）●伊政府、ローマ教皇の政治への介入を禁止。
12（水）●憲政会、東京・築地精養軒で内閣弾劾大会。
13（木）●綿糸輸出制限令実施で綿糸相場暴落。
14（金）●ソビエト赤軍、シベリアのオムスク占領。白衛軍をイルクーツクへ撃退。
15（土）●内務省、動物の虐待・酷使防止徹底を通牒。
16（日）●中国・福州で排日学生デモ。在留邦人百余人が学生と衝突（26日、陸戦隊上陸。福州事件）。
17（月）●英皇太子ボンベイ入りでインドに反英大暴動。
18（火）●大本教、亀岡市の亀山城址を買収。
19（水）●米国上院、ベルサイユ講和条約批准を否決。
20（木）●米国務長官、幣原大使に写真結婚による日本婦人の渡米禁止を要望。
21（金）●前日、玉川上水に落ちた児童を救おうとして行方不明になった麹町小学校教員の遺体発見。
22（土）●初の公立大学・府立大阪医科大学の設立認可。
●外モンゴルが再び中国の宗主権下に入る。
23（日）●道路改良会、東京―神戸間の国道調査開始。
24（月）●平塚らいてう、新婦人協会の結成を発表。
25（火）●隅田川で東京帝大と早大が初の対校レガッタ。
26（水）●大日本鉱山労働同盟会、足尾銅山の飯場制度撤廃などを要求しスト（12月6日、解決）。
●英軍がシン・フェイン党弾圧開始、武力衝突。
27（木）●臨時外交調査委、シベリア増派は補充の一〇〇〇人認め、陸軍主張の大部隊派遣を否決。
28（金）●緊急勅令で物価抑制のため大豆・生牛肉・鶏卵・綿織糸・綿織物の輸入税を免除。
29（土）●京都の帝展で作品一〇点に墨を塗った男検挙。
30（日）●警視庁、鑑識写真係と写真機を各署に配置。

「写真タイムス」

▲国産装甲車を試運転（12月10日）陸軍省の特命で自動車工業所が製作。芝浦に仮設軌道を設けて、走行実験を行った。装甲車は第1次大戦で登場、兵員を安全に輸送するためには不可欠とされた。

「写真通信」

▶中条百合子(20)、帰国（12月17日）母重病の報で急遽ニューヨークから（右）。コロンビア大でともに学ぶ荒木茂と10月に結婚したばかり。すでに『貧しき人々の群れ』を発表、天才とうたわれていた。

▲C51形機関車が登場（12月1日）鉄道輸送力向上をめざし、狭軌では世界最大の動輪直径1750ミリを採用、急行用として活躍した。最高時速95キロ。東京・青梅鉄道公園に保存。

◀東京に公設質店（12月5日）市民生活の安定をめざし、東京府慈善協会が日暮里に「武蔵屋質店」を出店。利息は相場の半額、店主は前掛け姿の気どらぬ装いで歳末を前に大いに受けた。

▲ルノワール逝く（12月3日）前日まで、リウマチのため不自由な指で絵筆を握っていた。78歳。フランス画壇の印象派の第一人者で、明るい色彩を駆使、官能的な絵を発表した。

◀大日本国粋会創立（11月14日）労働争議の頻発を憂えて発起。関東・関西代表の侠客60人が、東京の料亭に集まった。総裁は大木遠吉。顧問に頭山満、床次竹二郎内相ら。

「写真通信」

大正8年12月

1（月）●鉄道院浜松工場で完成の大型蒸気機関車（後のC51）、名古屋―浜松間を試運転。
2（火）●友愛会日立連合会の演説会で麻生久、山本懸蔵ら幹部が検挙され連合会壊滅（日立事件）。
3（水）●愛知県・豊橋で地雷演習中に暴発、三人即死。
4（木）●米国アジア艦隊司令長官一行、横浜に寄港。
5（金）●東京府、日暮里に初の公設質店を開く。
6（土）●内務省、道路法により道路台帳・道路構造・街路構造などの基準を公布。
●小倉競馬倶楽部、第一回競馬大会を開催。
7（日）●山口県・彦島の渡船が転覆、三十余人溺死。
8（月）●逓信省、電話料金の度数制導入を決定。
9（火）●大阪市、都市改造一〇年計画案を発表。
10（水）●第一回全国連合体操女教員大会、東京で開催。
11（木）●赤軍がハリコフを占領し、全ウクライナ革命委結成（13日連合国、反革命軍支援を停止）。
12（金）●東京・神田青年会館で全国普選期成大会開催。
13（土）●幣原駐米大使、米政府に写真結婚による日本婦人の渡米を、翌年二月末で禁止すると通告。
14（日）●秋の長雨で東京の道路悪化し主力の荷馬車輸送力が半減、各駅は滞貨の山、と新聞に。
15（月）●賀川豊彦らの提唱で、関西の一四労働団体が普選期成関西労働連盟を結成。
●大阪で日本電力㈱の創立総会を開催。
16（火）●軍需調査令公布。五人以上の全工場に生産額・設置機器などの報告書提出を義務づける。
17（水）●奈良女子高等師範学校に保母養成所を設置。
18（木）●シベリア派遣軍、悪性感冒蔓延、死者二百余人。
19（金）●大阪商船、資本金五〇〇〇万円を倍額に増資。
20（土）●十五銀行、浪速・神戸川崎・丁酉銀行を合併。
21（日）●米政府、ソビエト干渉に抗議の外国籍活動家二四九人を国外追放（米国内の反共運動熾烈）。
22（月）●渋沢栄一ら、労使協調のため㈶協調会設立。
23（火）●英、インド統治法公布。州政府設置し一部権限移譲。ガンジーらが反対声明を発表。
24（水）●大阪北港㈱、設立（住友商事の前身）。
25（木）●仙台―盛岡―青森間の長距離電話を開設。
26（金）●千葉県習志野の独軍捕虜九四四人が帰国。
27（土）●大阪控訴院、大阪アルカリ工場訴訟で会社の技術的不備を問い、住民勝訴の判決。
28（日）●全国的な大雪で電信六一回線切断、不通に。
29（月）●東京の公設市場、のし餅を市価三割安で販売。
30（火）●年越し避寒客の二等車利用四割増、と新聞に。
31（水）●正貨、前年比二割増の二〇億五八〇〇万円。

流行語

鼻息荒い紡績女子工員

「半反」。稼ぎの少ない男、または結婚の対象外の男のこと。第一次世界大戦後、織物ブームがやって来て、栃木、群馬などの織物地帯では紡績女子工員が一ヵ月に五〇円以上稼ぐことも珍しくなかった。これに対して、同世代の男性の給料は一五円から二〇円。紬が一反四〇円だったから、半分以下だった。これが転じて、同世代の男たちを彼女らはこう呼んだ。

「イージー」。学生が繁華街で女学生と知り合うこと。イージー恋愛の略。大正時代に入って「イージーおしめ」「イージー帯」など、イージーと名のつく商品が次々と登場した。それをもじって女学生をナンパすることをイージー（恋愛）と言った。

「新勝色」。高島屋が第一次世界大戦の勝利を記念して、新勝色の洋服やショール、パラソルを売り出した。「勝利の表象である月桂樹の深緑」というのがうたい文句。これが当たって、濃い緑がこう呼ばれた。

「メチレット」。すぐカッとなる男のこと。この年、メチレットというライターが発売され、それが転じたもの。

文化

売れっ子は小川未明 小説・戯曲の掲載数

昨年一二月からこの年一一月までの一年間に、おもな雑誌（一三誌）に発表された小説や戯曲の数を調べたところ、次のような結果が出た。作数の多い作家が流行作家ではないが、この一年の傾向はうかがえる（発表作一〇篇以上）。

一六篇　小川未明
一五篇　正宗白鳥　上司小剣
一三篇　岩野泡鳴
　　　　谷崎潤一郎
一二篇　広津和郎
一一篇　佐藤春夫
　　　　芥川龍之介
　　　　加能作次郎
一〇篇　田山花袋
　　　　藤森成吉

通算すると、一年間に作品を発表した作家の総数は一〇七人で、作品数は三九〇篇。そのうち一一人の作家で一三九篇、全体の三分の一を占めている。吉田絃二郎、菊池寛、江口渙などが続いているが、一年間に作品がひとつだけという作家も久保田万太郎、生田長江など四八氏におよんでいる。（「文章世界」一二月号）

▲三上知治画「喫煙倶楽部となった中学生の出入りするカフェー」。不良学生の溜まり場を描いたもので、『七いろ唐辛』収録。

日本漫画資料館提供

食

女学校で流行 給食に大根飯

米の高騰によって代用食の必要が叫ばれている折から、その要請にこたえるために、東京・芝の戸板裁縫学校や三田高等女学校においては、九月の新学期から全校生徒に対し、馬鈴薯米を常食とした り、大根を細かく刻んで米飯中にまぜ、これに少量の塩を加えた、いわゆる大根飯を給食として出すことを決めた。また日本女子商業学校でも麦、馬鈴薯、脱脂大豆などの代用食を全生徒に給食することにしている

これは一種の虚栄心から、女生徒が麦飯や代用食の弁当を学校に持っていくことを恥じるという傾向が見られるところから、この心得違いを打ち破り、同時に米の節約の実をあげるために実行するものである。（「読売新聞」八月三一日）

「写真通信」

▲この年3月、高架線の開通により、東京駅が甲武鉄道（現・中央線）の始発駅に。写真は、甲武線市ケ谷駅付近、丘の上の建物は陸軍士官学校。

CM100年

ポスターCM「ベルベット石鹸」（日本リバー・ブラザーズ社）

▲この石鹸の空き箱を集めるのが、子どもたちの間で流行に。画は伊東深水。

三面記事

東京初の乗合自動車試乗記

東京初の乗合自動車が運転を開始した。開業日の三月一日、午後一時頃、新橋から乗ってみる。青色に塗られた箱自動車の後部の乗降口から上がりこもうとすると、どやどやと我勝ちにひしめき合って、新車掌君、すこぶる面食らいの態、「満車ですから後に願います」とガラスの観音扉をピシャンと閉める。天井が低くて、記者の山高帽はたちまちペコンと凹んだ。腰をおろすと定員一六人の座席はかなり窮屈だ。

……「車が大きくて骨が折れます」と、運転手は右手に警鈴の圧搾管（スポイト）を持ち、絶えずブーブーと鳴らす。日本橋に停車すると小僧らしいのが「ああ面白い」と言って、一区分一〇銭を払って下車する。代わりあって夫婦連れが乗ろうとするが、「お一人だけ」と車掌に拒まれ、「吊り革が空いてるだろ」とヒゲの亭主。

すれ違うお抱え自動車の窓から、反り身になった人がニヤニヤと冷たい笑いをあびせてすぎる。（「東京朝日新聞」三月二日）

▶大正八年五月一日、詩人・萩原朔太郎は、祖父・八木始の弟である依田鐐五郎の世話で、上田稲子と結婚した。

社会

講和会議へお妾さん連れで 全権・西園寺公望公の蛮勇

大正八年一月一八日から、花のパリのベルサイユ宮殿で、世界二七ヵ国の代表が集まり、第一次世界大戦の講和会議が開催された。

日本からも西園寺公望（公爵）を全権大使とする代表団が出席したが、西園寺公はこの旅行に、大阪の料亭「灘万」の仲居だったお花さんという女性を連れていったので、「重大使命を帯びた国際会議に、妾連れで出席するとは何ごとだ」と世間は立ち騒いだ。

六月二八日、講和条約や国際連盟の規約などの調印を終えると、二人してのんびりとヨーロッパを見物、八月二四日、相携えて帰国したが、行く時は楚々とした和服姿だったお花さんが、服も帽子も真っ白の活動的な洋装美人に変身していたので、またまた世間の話題になった。さっそく当時大流行していた「平和節」の替え唄で、「花ちゃんたら別ぴんさんで愛嬌者……」などと盛んに歌われたものである。（高橋鉄『近世近代150年性風俗図史』下）

食

食事も読書もお湯の中 二二歳男性の達観人生

〔福岡発〕九州医科大学で開催された大日本皮膚科学会総会で、この五年間、朝から晩まで四六時中、浴槽の中に入りっきりという珍しい患者が報告された。

この人物は長崎県対馬の生まれで、二二歳の男性。一七歳の時天然痘という難病にかかったもので、ちょっとでもお湯から出ると、激しいかゆみで七転八倒の苦しみに襲われるというので、三度の食事も風呂の中で食べているし、読書も眠るのもお湯につかったまま。五年間の浴槽生活でみずからの運命をすっかり達観し、今では敬虔なキリスト教信者として余命を送る覚悟をしているという。（「東京朝日新聞」四月三日）

◀大正七年、初めてチョコレートを売り出した森永製菓は、八年九月、国産ミルクココアを新発売。

この年の初もの

農業用のトラクターを農商務省が米から輸入

●スポーツ　五月、第一回全国中等学校陸上競技選手権大会、東京帝大で挙行。

●遊興税　金沢市で実施。貸し座敷などに芸妓を呼んで遊興した場合、費用が二円に達したら一〇銭、その後は一円増すごとに五銭。

●女船長　三月、広島県の花戸いと（二二）が船舶法による丙種船長の免許を取得。

●口語体の訓令　文相・中橋徳五郎が口語文を奨励し、初めて出したもの。

「写真タイムス」

▶年末、跡見女学校で開始された、スイス式の体操教練。

はやり歌

東京節（パイノパイノパイ節）
作詞　添田さつき
曲　「ジョージア・マーチ」の調

東京の中枢は丸の内
日比谷公園両議院
いきな構えの帝劇に
いかめし館は警視庁
諸官省ズラリ馬場先門
海上ビルディング東京駅
ポッポと出る汽車どこへ行く
ラメチャンタラギッチョンチョンデ
パイノパイノパイ　パリコトパナナデ
フライフライフライ

東京で自慢はなんですね
三百万人うようよと
米も作らずにくらすこと
タジレた市長を仰ぐこと
それにみんなが感心に
市長のいうことよくきいて
豆粕食うこと痩せること
シチョウサンタラケチンボデ
パイノパイノパイ　洋服モツメエリデ
フルイフルイフルイ

▶この頃、米価高騰により、米が大衆の口に入らなくなった。写真の東京市長・田尻稲次郎は、代用食として豆粕食を奨励したが、歌詞はそのことを揶揄したもの。

かなりや
作詞　西條八十
作曲　成田為三

唄を忘れた金糸雀は
後の山に棄てましょか
いえ　いえ　それはなりませぬ

唄を忘れた金糸雀は
背戸の小藪に埋けましょか
いえ　いえ　それもなりませぬ

唄を忘れた金糸雀は
柳の鞭でぶちましょか
いえ　いえ　それはかわいそう

唄を忘れた金糸雀は
象牙の船に　銀の櫂
月夜の海に浮かべれば
忘れた唄をおもいだす

東京芸術大学蔵

◀大正七年一一月、「赤い鳥」に発表され、この年一〇月刊行の『「赤い鳥」童謡』におさめられた作品。

世界の動き

ベルサイユ講和条約440条が成立!
「植民地放棄、軍備縮小、巨額の賠償金」
第1次世界大戦終結とドイツの“屈辱”

第一次世界大戦の休戦協定から七ヵ月半後、パリのベルサイユ宮殿で講和条約が調印された。しかし、このベルサイユ体制は、帝国主義列強間の利害の調整にすぎなかった。戦争責任を押しつけられた敗戦国・ドイツの屈辱は大きく、それが、ヒトラー台頭への道を開いていく。

強硬だった連合国側にドイツ側が激しく抵抗

一九一九年五月七日――オーストリア皇太子暗殺から五年、第一次世界大戦終結から六ヵ月後のこの日、全文約八万語、一五の主要項目にわたる対独講和条約草案が、ベルサイユのトリアノン宮殿で連合国側からドイツ側に手渡された。

ドイツ側講和全権委員の顔ぶれは、外務大臣・伯爵のブロッグドルフ・ランツァウら六人。しかし、それはドイツにとってはとうてい受け入れられるものではなく、条約綱要がドイツ本国に伝えられると、国内には悲壮感が漂った。九日には、首相のシャイデマン（五三）が、国民議会で演説し、「連合国がわが国に対する憎悪の念に駆られ、半狂乱になって作成した講和条約」であると訴える。

しかし、連合国側の姿勢は強硬だった。講和会議議長であるフランスのクレマンソー首相（七七）は、ドイツ側の「事実上、その要求は遂行不可能」という抗議文を一蹴し、「ドイツの議論をさしはさむことを容認しない」と回答する。

ドイツ国内では、条約調印に対する抗議行動も相次いだ。連合国側に引き渡され、イギリス海軍のスカパ・フロー基地に抑留されていた約一〇〇隻のドイツ↖

▲サラエボ事件からちょうど5年目にあたる6月28日、ベルサイユ宮殿の「鏡の間」でドイツ代表団は講和条約に調印した。 Popperfoto ユニフォト・プレス

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

▲講和会議場に相次いで到着する各国全権。会議は常に戦勝国の利害を優先して進められた。

▲条約調印書。2国間ずつで調印し、代表者が署名した。アメリカの上院は、この年の11月、条約の批准を拒否し、翌1920年3月には国際連盟案をも否決した。

艦隊は、搭載していた爆薬で一斉に自沈するなど、激しい示威行動を展開したが、ドイツ側の抵抗はそれまでだった。そして、署名を拒否したシャイデマン首相が六月二一日に辞職、後継のバウアー内閣のもとで開かれた二三日のドイツ国民議会は、一三八票対二二八票の大差で条約調印の受諾を決定し、フランスのクレマンソー首相に対し覚書を送付する。

講和条約の調印式は六月二八日午後三時、ベルサイユ宮殿の「鏡の間」で行われた。その日付は、かつてオーストリア皇太子が暗殺された日と同じで、場所は、普仏戦争でフランスがドイツに敗れ（一八七一年）、アルザス＝ロレーヌ地方分割の条約を結んだ場所であった。

条約文は、全体で四四〇条におよぶ膨大なものであった。しかも、五日以内に受諾しなければ戦争を再開するという強圧的なものだったが、三時一二分、ドイツ全権委員は、連合国軍最高司令官・フォッシュを中央にした連合国側を前に条約に署名したのである。

戦勝国の思惑が錯綜し講和会議は取引の場に

ドイツに対する連合国側の講和条約草案作成が開始されたのは、一九一八年一一月一一日の休戦協定調印から約二ヵ月後の一九一九年一月一八日のことであった。会場となったフランス外務省の前には、ドイツへの報復を期待する大群衆が集まり、その中を各国代表が議場となる「時計の間」に相次いで入っていった。

同日午後三時五分、フランス大統領・ポアンカレ（五八）の開会の辞で始まった会議には、二七ヵ国、七〇人の委員が参加、馬蹄形の机を囲み、講和条約草案に向けた激しい論議が繰り広げられた。

論議は終始、アメリカのウィルソン大統領（六二）、フランスのクレマンソー首相、イギリスのロイド・ジョージ首相（五六）がリードする形で進められた。ドイツを徹底的に打ちのめしたいフランスは、かつてドイツに分割したアルザス＝ロレーヌ地方返還のほか、ケルンなどの都市を含むライン川左岸の国際管理を強硬に認めさせようとして英米と対立し、列強の足並みはそろわなかった。

戦勝国として日本も会議に参加した。しかし、西園寺公望（六九）を首席全権とする日本代表団は、政府から「直接日本に関係ないことには口を出すな」と命じられ、中国・山東省のドイツ権益の譲

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲講和会議の主要メンバー。前列左からオルランド伊首相、ロイド・ジョージ英首相、クレマンソー仏首相、ウィルソン米大統領。

外から見たNIPPON

「三・一独立宣言書」の起草者・崔南善の四〇年

――佐伯 修

▶雑誌『少年』『青春』などを創刊。

「顧みるに、光武末年（一九〇七年）に祖国の縷命が絶たれようとするのをみて、独善自安をこらえきれずに、日本留学の身を投げ捨てて『大韓史』『大韓地理』の未定稿と活版印刷機具をもって、あわただしく故国の乱渦に投帰してから、すでに四〇年経った」（山田昌治訳）

日本の敗戦により、朝鮮が植民地支配を脱した一九四五年の暮れ、文学者・歴史学者の崔南善（一八九〇～一九五七）は、半生を振り返って述べている。そんな、彼の「四〇年」で最大の事件は、この年、日本統治下の朝鮮全土を揺るがした「三・一独立宣言書」の起草だったに違いない。

「吾等はここに朝鮮が独立国であり、朝鮮人民が自主民であることを宣言する」という言葉で始まる「宣言書」は、日本の韓国併合が「民族的要求より出たものではなかった」ゆえに「利害の相反した両民族間に永遠に和することのできない怨みの溝を益々深めている」ことを告げ、「今日われらの朝鮮独立は朝鮮人民をして正当な生栄を遂げしめると同時に、日本をして邪路から出でて東洋支持者としての重責を全うさせることであり、（中略）東洋平和を重要な一環とする世界平和、人類幸福に必要な階段になるようにすることである」（市川正明編『朝鮮半島近現代史年表・主要文書』より）と主張している。

六堂・崔南善は、官吏の次男として漢城（現・ソウル）に生まれ、一一歳で早くも新聞などに文章を投稿、日本の東京府立一中や早大に学んだが、帰国して、言論・出版活動にたずさわった。「宣言書」の起草を依頼した崔麟や、文学者の李光洙らとの出会いも日本においてだった。

「独立宣言」発表の翌々日、崔は日本側に逮捕、投獄される。だが、そんな崔も、戦後、韓国で「親日派」として刑を受けた。朝鮮総督府の「朝鮮史編修」への関与や、「満州国」建国大学に勤務したためという。

戦後、崔は日本時代に忘れられかけた祖国の歴史、伝統、文化に関する啓蒙書を著したが、そこには南北分断以前の朝鮮知識人の、再出発した祖国に託す理想が現れている。冒頭に「序文」の一節を引いた『国民朝鮮史』（邦題『物語朝鮮の歴史』）もそのひとつで、別の『朝鮮常識問答』（相場清訳）という本の中では、崔は日本を、「深窓の生娘」「温室の草花」に、朝鮮を、荒くれ男の相手をしつつ貞節を守る酒場の女主人のような「東洋歴史の街道筋に座った凛たる女丈夫」になぞらえている。

渡を要求した以外は、明確な主張を持たず、会議は国境線の最終画定など、英米仏列強の取引の場となったのである。

疲弊した英仏独を尻目に大国にのしあがった米国

作成された講和条約の内容は、ドイツにとってあまりにも過酷なものであった。

条約では、ドイツの全海外植民地の放棄、ベルギー、ポーランド、チェコスロバキアなどに領土を一部割譲、さらに賠償金の支払いが決定された。軍事力も極端に縮小され、陸軍は一〇万人、海軍は一万六五〇〇人に制限、戦車や潜水艦、毒ガスなどの保有は禁止された。

特に厳しかったのは、条約の二三一条の「戦争責任条項」であった。それは戦争の責任は、すべてドイツとその同盟国にあるとするもので、ドイツ国内では再び激しい反発の声があがった。

また、一三二〇億金マルクもの賠償金は、一九一三年のドイツ国民総生産の三倍にものぼる巨額なもので、とうてい負担しきれるものではなかったのである。ベルサイユ条約とは、一体、何だったのか。

「条約によって成立したベルサイユ体制は、所詮、列強間の利害の調整にすぎませんでした。屈辱と感じたドイツではヒトラー台頭の温床となるとともに、新たなファシズムのうねりが、第二次世界大戦へと向かっていったのです。しかし、国際連盟や国際労働機構の創設が決定されるなど、国際問題や国家間の紛争を調停によって解決する試みが提案されたことは、それ以前の講和会議には見られなかったという点で画期的でした」

こう語るのは、専修大学教授の西川正雄氏である。

結局、真の勝者になったのはアメリカだった。オーストリア＝ハンガリー帝国は崩壊、戦争で疲弊しきった英仏独を尻目に、直接の戦禍をまぬがれたアメリカのみが大国へとのしあがっていく。

一方、ドイツの歴史学者・マイネッケによれば、ドイツ民衆の間には、傷つけられた誇りを癒すために、「戦争に負けたのは国内の反乱兵士や陰謀家たちの裏切りのせいであって、本当は自分たちが勝てたのではないか」という神話が生まれたという。ヒトラーは、こうした大衆心理をたくみに利用していくのである。

G・B・クレマンソー（1841～1929）
フランスの政治家。一八七一年代議士初当選。急進社会主義派に属し、「虎」の異名をとる。一九一七年、ポアンカレ大統領により首相に任命された。

D・ロイド・ジョージ（1863～1945）
英国の政治家。一八八四年弁護士となり、一八九〇年自由党下院議員に選出される。一九一六年には連立内閣を組織して首相に。

T・W・ウィルソン（1856～1924）
アメリカの政治家。一八九〇年にプリンストン大学教授。ニュージャージー州知事に当選後、一九一二年に第二八代大統領に就任。

▲日本側5全権。前列左から牧野伸顕、西園寺公望、珍田捨巳。後列左から伊集院彦吉、松井慶四郎。

往きて還らぬ

▲8月11日　A・カーネギー（83）
米の実業家。スコットランドから移住し、一代で鉄鋼王に。1901年実業界から退き、巨額の富を慈善事業に寄付。

▲4月27日　前島密（84）
明治期の官僚で、近代郵便制度を確立。東京専門学校校長、北越鉄道会社社長などもつとめ、明治37年貴族院議員。

▲2月20日　村山槐多（22）
画家。関根正二とともに大正洋画界の異才とうたわれた。作品は「湖水と女」のほか、詩集『槐多の歌へる』がある。

オリオン・プレス

▲1月6日　T・ルーズベルト（60）
米の政治家。1901年大統領に就任。パナマ運河を建設。1905年には日露戦争を調停、翌年ノーベル平和賞受賞。

▲8月27日　ルイス・ボータ（56）
南アフリカの政治家。1910年南ア連邦初代首相に就任。1913年原住民土地法を制定、人種差別政策を推進した。

▲6月6日　井上円了（61）
明治から大正期の哲学者。明治20年哲学館（現・東洋大）創設。『妖怪学講義』を著し、妖怪博士と言われた。

毎日新聞社

▲3月4日　成瀬仁蔵（60）
教育者で、キリスト教牧師。梅花女学校校長などを経て、明治34年日本女子大学校創設。女子高等教育普及に尽力。

▲2月18日　大山捨松（58）
日本初の女子留学生の一人。明治16年陸軍卿・大山巌と結婚。赤十字社篤志看護婦人会などで活躍した。

▲9月11日　森村市左衛門（79）
明治から大正期の実業家。明治中期、対米貿易で成功、三七年日本陶器会社創設。「ノリタケチャイナ」を生んだ。

▲7月16日　板垣退助（82）
明治の政治家で、自由民権運動の主導者。後に内相をつとめ、伯爵。「板垣死すとも自由は死せず」の名文句で知られる。

◀11月3日　寺内正毅（67）
明治大正期の陸軍軍人、政治家。初代教育総監、後に陸相。日韓併合とともに初代朝鮮総督もつとめ、大正五年元帥、首相に。

毎日新聞社

▲3月7日　三島弥太郎（51）
政治家、実業家。明治30年31歳で貴族院議員となる。横浜正金銀行頭取から、大正2年日本銀行総裁に就任。

▲3月25日　辰野金吾（64）
建築家。工部大学校の第1回卒業生で、英国留学。日銀本店、東京駅などを設計。東京帝大工科大学学長もつとめた。

ミニ事典
1919年のキーワード

シン・フェイン党
アイルランド独立運動を推進した政治団体。シン・フェインとは「我ら自身」を意味するアイルランド語。一九〇五年結成。一七年に英国からの独立運動を展開。この年、一九一九年一月二一日、ダブリンで国民議会を開催し、デ・バレラを大統領に独立を宣言したが、英国は認めず、英軍と武力衝突を繰り返した。四九年のアイルランド共和国の分離独立後は、再統合を主張して過激派・IRAの合法政治団体となった。

中学校令改正
学業が優秀かつ身体が健康であれば、尋常小学校五年修了時でも入学できるなど、従来の中学校令を改めた文部省令。二月七日公布。優秀児の速成がねらい。しかし、この「飛び級」について「いたずらに父兄の虚栄心をくすぐり、子どもの将来にとって不幸」「月並みな優秀児童に重荷を背負わせることになり、ためにならない」など、小中学校の教育関係者からの反論は強かった。

民人同盟会
早大生を中心にデモクラシーの啓蒙・普及を掲げて組織された団体。二月二一日発会。吉野作造らによる民本主義思想の啓蒙団体・黎明会や、東京帝大・新人会設立に刺激を受けた、高津正道・稲村隆一・浅沼稲次郎らが中心となり、北沢新次郎・大山郁夫両教授が指導した。労働運動や農民運動を志向する浅沼、平野力三らは、一〇月一八日、建設者同盟を結成。堺利彦・山川均らマルクス主義者と袂を分かった。

コミンテルン
ソビエトの指導者・レーニンの提唱で設立された国際的革命組織。共産主義インターナショナルの略。第三インターナショナルとも。三月二日から六日まで、モスクワで創立大会開催、三〇ヵ国五一人の代表が集まった。第一次世界大戦勃発後、それまで第二インターナショナルを支えていた各国社会主義政党の多くが、自国の戦争に協力したため、欧州の共産主義革命をめざす、新たな国際組織の建て直しが急がれていた。

毎日新聞社

▲コミンテルン創立大会。レーニン(中央)は欧州革命の成功を訴えた。

信玄公旗掛け松事件
山梨県東部、中央線日野春駅舎至近の地元民が、「信玄公旗掛け松」として大切にしていた老松が蒸気機関車の煤煙で枯死したと、国を相手に損害賠償を請求した事件。三月三日、大審院はしかるべき煤煙予防をしていなかったと判断、国の権利乱用を指摘、老松の所有者の訴えを認めた。個人が国を相手に起こして勝った、公害訴訟の初めての判例となった。

関東庁
日露戦争後、ロシアから受け継いだ中国・遼東半島の租借地・関東州の最高行政機関。また南満州鉄道の業務を監督した。関東都督府に代わり四月一二日設置。関東都督府の長・関東総督が天皇に直隷する中将以上の現役武官であったのに対し、関東庁は内閣総理大臣が統轄、渉外事項は外務大臣が監督、関東庁長官は文官に改められた。初代長官は林権助。「満州国」建国後の昭和九年、対満施策統一のため廃止された。

史蹟名勝天然紀念物保存法
重要な文化財や景勝地などの指定と管理、その破壊や現状変更に対する規制・罰則などを定めた法律。四月一〇日公布、六月一日施行。大正三年に雑誌「史蹟名勝天然紀念物」を創刊した徳川頼倫らが建議。内務大臣が文化財や地域を定め、地方公共団体に管理を委託することができるなどとした。昭和二五年以降は、文化財保護法に引き継がれ、文化財保護審議会の議を経て文部大臣が指定。

史蹟名勝天然紀念物

▶大正三年に徳川頼倫らが創刊した紀念協会の機関誌。各地の記念物紹介につとめ保存法成立の原動力となった。

俸給生活者
大戦景気を背景に都市部で急増した下級官吏・会社員・銀行員など、給料生活者のこと。サラリーマン。東京では市人口の約二割に達し、背広姿で通勤し郊外に住む生活様式はモダンだったが、諸物価高騰のため、その内実は厳しかった。六月二八日、東京俸給生活者同盟会が発足。生活の向上を期し「一家五人で文化生活を味わうには、年収二〇〇〇円以上が必要」などを提案した。

節米運動
米価暴騰に対処するために行われた米の消費削減、代用食奨励の運動。七月二二日、床次竹二郎内相が全国地方長官に布達、国民の協力を求めた。この年、米価の高騰はすさまじく、三年前には一石(約一八〇・四リットル)一二円台だったものが、四一～四二円にもなり、前年の「米騒動」の再燃を思わせた。二月に、大阪府知事が米飯昼食者には罰金を科し、麦飯を奨励したのをはじめ、官庁中心の運動が起きていた。

「写真通信」

▲2月に池上大阪市長、犬養毅(写真左から)らが出席して開いた麦飯試食会。

ワイマール憲法
第一次世界大戦で敗北したドイツに成立したドイツ共和国が、七月三一日に採択した新憲法。二〇世紀の民主主義的憲法のモデルとされる。国民主権、議会制民主主義を採用、国会議員と大統領は国民の直接選挙で選ばれた。しかし、公共の安全と秩序が危険にさらされる場合は、国民の基本的権利を停止できるという非常大権を大統領に与えたため、後のヒトラー独裁を生む土壌を作った。

八時間労働制
一九世紀後半から世界的趨勢になった、一日当たりの労働時間。一〇月二九日に日本を含む四〇ヵ国代表が参加した、第一回国際労働会議で採択。日本は批准しなかったが、この年、労働者の要求が強く、七月に鉄道院が実施したのをはじめ、労働生産性向上の観点から、八時間労働制を導入する企業が続出。川崎造船所、大日本紡織、大阪鉄工所、森永製菓などが次々実施に踏み切った。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀1919

CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順 吉田忠正

●写真協力
石田雄 江頭徹 尾形光彦 近藤千浪 沢田城子 但馬憲 津島利典 堀内寛 松本健一
Ullstein 大月書店 オリオン・プレス CORBIS BETTMANN 至文堂 デジタルハウス PPS 平凡社 PPS opperfoto 毎日新聞社 マツダ映画社 雄山閣出版 ユニフォト・プレス 龍星閣 ROGER VIOLLET
明治屋 大宅壮一文庫 Granger Collection 国立国会図書館 三康図書館 勝廣寺 榛東村耳飾り館 成實閣 台東区立下町風俗資料館 竹久夢二伊香保記念館 竹久夢二美術館 中国文化省 東京芸術大学 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 鳴門市ドイツ村 日本近代文学館 日本のあかり博物館 日本漫画資料館 野間教育研究所 法政大学大原社会問題研究所 港区立港郷土資料館 吉澤野球資料保存館 両津市郷土博物館

定価560円

雑誌 23715-9/29
Ⓛ-2001/1/1
T1123715090568

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社